函館市医師会看護・リハビリテーション学院　理学療法学科

□　選択　☑　必修			☑　講義　□　演習　□　実習	
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
生理学	石田　裕二	2	1	前期

授業概要	生体機能の基礎的知識（生命活動の本質），呼吸，循環，消化，排泄，それらを調節する自律神経や内分泌系の働きを学習する　特に各種の障害に深く関係する神経生理学を重視した内容を展開する
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	概説	生命現象とは何か，人体の構造とその概略についてイメージできるようになる
2	細胞レベルの構造と機能	生命の原点である細胞の構造と機能についてその概略が理解できる
3	細胞膜の機能と膜電位・活動電位の発生機序①	分極，脱分極，再分極など細胞膜と生命現象の関係の概略を理解できる
4	細胞膜の機能と膜電位・活動電位の発生機序②	ニューロン（neuron）、シナプス（synapse）など、神経の基本構造を理解できる
5	神経系①　ニューロンとシナプスの構造と機能	中枢神経系（脳と脊髄）の構造と機能の概略を理解できる
6	神経系②　中枢神経と末梢神経の構造と機能	中枢神経系と末梢神経系の形態的・機能的な分類ができるようになる
7	筋生理	筋収縮に関するエネルギー供給・代謝について説明できる 滑走説を説明できる
8	脊髄の構造と下行路	錐体路系の下行路と錐体外路について理解できる
9	脊髄の構造と上行路	脊髄内の上行路と関連している感覚モダリティについて理解できる
10	伸張反射の回路①	脊髄の構造と機能の概略を説明できる 筋紡錘、腱器官の構造と機能を説明できる
11	伸張反射の回路②	脊髄反射の回路が理解できる 錘内筋の活動、機能について理解できる
12	自律神経系の構造と機能	自律神経（交感神経と副交感神経）の機能・神経制御によるホメオスタシスの維持機能について概略が理解できる
13	脳神経概論	脳神経の構造と機能の概略を理解できる　また、自律神経系との関連性について理解を深める
14	神経系のまとめ	神経系について（動物機能生理学系）総じてその概略を理解できる
15	血液・体液	循環器ホメオスタシスに関与する血液・体液について、その機能の概略を理解できる
16	心電図学　①	心臓の構造と機能の概略を学習し、心電図が表現する波形について理解を深める
17	心電図学　②	正常心電図の波形の名称、その意味について理解を深める
18	心電図学　③	呼吸器と循環器の機能の関連性と心電図の変化の概略が理解できる

19	呼吸器概論	呼吸器・循環器の構造と機能が理解できる
20	呼吸器と酸塩基平衡	呼吸・代謝機能の全貌から酸塩基平衡について理解できる
21	内分泌学　①	ホルモンやサイトカインについて論じ、その作用の概略について理解を深める
22	内分泌学　②	内分泌に関わる臓器、生産過程などを理解できる
23	消化器学　①	消化器の構造と機能について概略が理解できる
24	消化器学　②	消化酵素（化学的消化）の作用について理解できる
25	泌尿器学　①	腎臓と膀胱の機能と構造について理解できる
26	泌尿器学　②	膀胱の神経支配、排尿反射と神経因性膀胱の概略を理解できる
27	遺伝学	遺伝のメカニズムを理解し、その特徴について理解を深める
28	免疫機構　①	免疫とは何かを理解し、作用する各因子（血球や免疫物質）について知識を深める
29	免疫機構　②	免疫反応と自己免疫疾患の関係、具体的な症状とその治療などの概略が理解できる
30	植物機能生理学の要点	ホメオスターシスを維持する植物機能について概要を理解できる

教科書	最新　リハビリテーション基礎講座　生理学 （医歯薬出版：電子教科書棚内）	履修条件	電子教科書にて授業を進行する　PCを用意すること30回の講義なので，7回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	生体の仕組み標準テキスト第3版　新しい解剖生理 （医学映像教育センター）	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・適宜中間テスト（30点分）を実施する ・中間テスト（30点満点）の結果と定期テスト（70点満点）の結果を総合して成績に反映させる ・欠席数が規定範囲を超えた場合（全出席数の1/5を終えた場合）定期試験を受験できないので 単位未修得となり留年することになるので注意すること		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
医療倫理学	平塚　健太	2	1	前期

授業概要	臨床で求められる医の倫理感を身に着ける基礎となる講義を行う
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	倫理とは	オリエンテーション・倫理の概要を理解する
2	医療における倫理	医療倫理の4原則について理解し、考えを述べることができる
3	医療者と患者の関係①	医療面接の基本的な考えを理解し、考えを述べることができる
4	医療者と患者の関係②	医療面接の手法を理解し、考えを述べることができる
5	コメディカルの職業倫理①	理学療法士・作業療法士の職業倫理を理解する
6	コメディカルの職業倫理②	理学療法士・作業療法士の職業倫理を理解し、考えを述べることができる
7	生命誕生のあらまし①	出生前診断，胚選別，妊娠中絶について理解する
8	生命誕生のあらまし②	出生前診断，胚選別，妊娠中絶について理解し、考えを述べることができる
9	薬害と医療事故	薬害の歴史や医療事故について理解し、考えを述べることができる
10	人工臓器	ES　幹細胞移植　iPS細胞の治療や倫理的問題を理解する
11	臨床研究の倫理①	臨床研究における倫理の歴史を基に考えを述べることができる
12	臨床研究の倫理②	臨床研究における倫理の歴史を基に考えを述べることができる
13	障害の受容	障害を受け入れる過程について理解する
14	終末期医療，安楽死と尊厳死	終末医療と尊厳死について理解を深め，自分の考えを述べることができる
15	まとめ	症例課題に基づき自分の考えをまとめ，述べることができる

教科書	必要に応じて提示する	履修条件	15回の講義なので４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	教養としての生命倫理	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

□　選択　☑　必修		☑　講義　□　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
心理学	林　美都子	2	1	前期

授業概要	人の認知機能からメンタル・心の在り方，対人関係までの仕組みを講義する
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	認知心理学の歴史について	認知心理学の歴史から現代の心理学について学ぶ
2	人間の心理機能①「認知」	精神，心について現代の心理学を踏まえ理解できる
3	人間の心理機能②「知覚」	時間・空間・運動の知覚/知覚の諸相 について理解できる
4	人間の心理機能③「学習」	古典的条件づけ，オペラント条件づけ，観察学習について理解できる
5	人間の心理機能④「記憶」	記憶のメカニズム，忘却，記憶の歪みについて理解できる
6	人間の心理機能⑤「動機づけ」	動機づけの分類と機能，自己効力，学習性無気力について学習し，セルフエフィカシーの測定演習を行い動機づけについて理解を深める
7	人間の心理機能⑥「感情」	感情発生のメカニズムと機能，欲求不満について理解を深める
8	まとめ	人間の心理機能①～⑥までの内容を総括し理解を深める（小テストも実施する）
9	メンタルヘルスとストレス	具体的にストレス度の測定を演習し，ストレスの考え方やメンタルヘルスについて理解を深める
10	パーソナリティ	パーソナリティの記述法，測定法について理解する
11	人間の心理機能⑦「知能」	知能の定義，知能の測定法を学習し，人間の社会生活に影響する知的障害とは何かを理解する
12	人間の心理機能⑧「思考」	思考とはなにか，問題解決能力とは何かを考察し，創造性の本質について理解する
13	人間の心理機能⑨「決定」	効用の評価や確率の判断について理解する
14	メタ認知について	メタ認知について理解し，自己洞察についての方法を考えることができる
15	認知心理学の今後	認知心理学を日常生活でどのように活用するか，しているかについて理解できる

教科書	・基礎から学ぶ認知心理学　人間の認識の不思議	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

函館市医師会看護・リハビリテーション学院　理学療法学科

☐ 選択 ☑ 必修		☐ 講義 ☑ 演習 ☐ 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
コミュニケーション英語	阿部　ジョスリン	2	1	前期

授業概要	Essential English language for a variety of situations in the hospital（病院内のさまざまな場面で必要な英語表現）
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	Introduction to class, teacher and students（クラス・講師・生徒紹介）	Questions and answers to better know each other using 'Are you..., Do you..., Can you..., and Were you...?'（Are you..., Do you..., Can you..., and Were you...?を使った質問と答え）
2	Unit 1 Hospital Departments（病院部門）	Using the present tense to describe hospital departments（病院の診療科を現在系で表現する）
3	Unit 2 Application Forms（各種申請書類）	Subject-Verb agreement to learn how to complete hospital forms（主語と動詞の一致で、病院の書類の書き方を学ぶ）
4	Unit 3 Parts of the Body（体の部位）	Using the present continuous tense to talk about medical problems（現在進行形を使って医療問題を語る）
5	Unit 4 Illnesses（病気について）	Using the simple past tense and have/be verbs to talk about illnesses and their symptoms（単純過去形とhave/be動詞を使って、病気やその症状について話すことができるようになる）
6	Review Units 1-4（復習）	Review of Units 1-4 from the textbook（教科書のUnit1～4の復習）
7	Unit 5 Daily Routine（日課）	Using Auxiliary verbs to ask and answer questions concerning daily routines and time（助動詞を使って、日常生活や時間に関する質問をしたり、答えたりする）
8	Unit 6 Hospital instruments（医療機器）	Using the future tense to talk about instruments used in a hospital（病院で使用する器具について話すために未来形を使う）
9	Unit 7 Locations of Hospital Instruments（医療機器の設置場所）	Using the continuous tenses to learn about locations（進行形を使って場所について学ぶ）
10	Unit 8 Hospital Directions and instructions（病院への行き方・指示）	Using the imperative for to give directions and instructions（指示や命令をするための命令形の使い方）
11	Review Units 5-8（復習）	Review of Units 5-8 from the textbook（教科書のUnit5～8の復習）
12	Unit 9 Directions outside the hospital（院外への道順）	Using the active and passive voice to give directions to locations outside the hospital（院外への道案内を能動態と受動態で使い分ける）
13	Unit 10 Chatting with a patient（患者さんとのおしゃべり）	Using a variety of tenses and frequency adverbs to talk about hobbies, likes/dislikes, frequency, etc.（趣味や好き嫌い、頻度などについて、さまざまな時制や頻度副詞を使って話す）
14	Unit 11 Talking about Medical History（病歴を語る）	Using the present perfect tense to talk about a patient's medical history（患者の病歴を話すために現在完了形を使う）
15	Unit 12 Hospital Procedures（病院での手続き）	Using Tag questions to ask and answer tag questions to give instructions to patients（タグクエスチョンを使って、患者さんに指示を出すためのタグクエスチョンとそれに答えるための質問）

教科書	Vital Signs (Revised Edition) by Vivian Morooka and Terri Sugiura, publised by Nan'un-do	履修条件	Attendance in all 15 classes is essential（15回の講義なので、4回以上の欠席で単位が修得できない）
参考書	特に無し	留意事項等	Both preparation and review are important（予習と復習の両方が重要）
成績評価	中間試験・期末試験の結果により総合的に判断		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
臨床コミュニケーション学概論	佐藤　香織	2	1	後期
授業概要	リハビリテーション職には文章で伝える技術が必須である。抄録・論文を作成するにあたって伝わりやすい文章の作成、適切な文法や文字、読解力などを学ぶ			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1 2	話し方と聴き方	・一般社会において適切なマナーで、わかりやすく会話をする意味を知る ・相手の訴えや情報について聞き、理解できる能力を向上できる
3 4 5 6	文章の理解について	・新聞や書物等の文書を読み、どのようのことが記載されているのかを理解する能力を向上させる。 ・多くの短文から始まり、長文理解を養うことができる
7 8 9 10	文章の理解について	・新聞や書物等の文書を読み、読解を学ぶことができる ・内容把握や趣旨把握の力を向上できる ・長文を読み、文脈や意図などを理解できる
11 12 13 14 15	文章の作成の方法	・短い文章を作成し文章の構成力を高める ・新聞や書物等の文書を読み、読解を高めることができる ・正しく伝わりやすい文章を作成する方法を理解する

教科書	講義では適宜資料を配布する	履修条件	授業の５分１欠席で期末試験の受験資格を失う
参考書		留意事項等	予習復習を怠らないこと
成績評価	・中間テストと期末テストの総合評価とする		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
医療物理学	古館　裕大	2	1	前期
授業概要	リハビリにおける治療やヒトの身体の動きをイメージできるための基礎となる講義を行う．本講義は，運動学（1年前期）や種々の専門科目と密接な繋がりがある．			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	オリエンテーション・基礎数学①（単位換算）	本講義の概要，医療物理学の必要性を把握できる．また，SI基本単位，SI組立単位の換算ができるようになる．
2	基礎数学②（三角比・ベクトル）	医療物理学で用いる基礎的な数学を復習できる．特に，三角比とベクトルの考え方を利用する事ができる．
3	位置，速度，加速度	物体の運動を考える方法と，物体の位置，速度，加速度を理解できる．
4	力とモーメント①（力のつり合い）	力のつり合いについて理解でき，簡単な計算ができる．
5	力とモーメント②（3種のてことモーメント）	関節運動の基本的な考え方であるモーメントの考え方と，3種のてこについて理解できる．
6	力とモーメント③（モーメントのつり合い）	モーメントのつり合いについて，簡単な計算ができる．
7	運動の分析①（重心と支持基底面）	重心と支持基底面の考え方が理解でき，簡単な計算ができる．
8	運動の分析②（関節運動）	関節運動をベクトルを用いて表現することができる．
9	医療機器の物理①（温度と熱）	中間試験を通して自身の理解度を確認できる．熱を利用した治療・医療機器を学ぶための基本的な仕組みについて理解できる．
10	医療機器の物理 ②（波）	波を利用した治療・医療機器を学ぶための基本的な仕組みについて理解できる．
11	医療機器の物理 ③（電磁気）	波・電磁気を利用した治療・医療機器を学ぶための基本的な仕組みについて理解できる．
12	医療機器の物理 ④（電磁気）	電磁気を利用した治療・医療機器を学ぶための基本的な仕組みについて理解できる．
13	医療機器の物理⑤（物理療法の基礎）	物理学的な観点から，物理療法の種類とその概要を理解できる．
14	医療物理学まとめ①	力学の範囲内で国家試験で出題される問題を演習し，これまでに学んだ内容を復習する事ができる
15	医療物理学まとめ②	熱，波，電磁気の範囲で国家試験で出題される問題を演習し，これまでに学んだ内容を復習する事ができる

教科書	PT・OTゼロからの物理学	履修条件	15回の講義の内，4回以上欠席の場合は単位が取得できない
参考書	特になし	留意事項等	講義の最中に不明な点が現れた時は，いつでも教員にアクセスする事
成績評価	小テスト，期末試験，課題により総合的に評価		
備考	特になし		

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
医療統計学	古館　裕大	2	1	後期

授業概要	統計学の基本的な考え方と，医療への応用を見据えた内容を扱う．本講義は，理学療法研究法（2年後期）と作業療法研究法（2年後期）と密接な関連がある．
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	オリエンテーション・基礎数学①（確率の考え方）	統計学の必要性について理解できる．また，簡単な事例や計算を用いて，確率の考え方が理解できる．
2	基礎数学②（同時確率，条件付き確率）	簡単な事例を用いて，同時確率と条件付き確率の考え方が理解できる．
3	記述統計学①（データの尺度と要約）	質的変数，量的変数について理解できる．また，それらのデータの代表値を理解できる．
4	記述統計学②（グラフの読み取り）	質的変数・量的変数それぞれのグラフの読み取りと描画ができるようになる．
5	記述統計学③（2変量データの読み取り）	散布図の読み取りができ，相関を理解できる．
6	記述統計学まとめ	与えられた実例に対して，データの要約と可視化ができるようになる．
7	統計的仮説検定①（母集団と標本，検定の考え方）	母集団と標本の考え方が理解できる．また，統計的仮説検定の考え方や流れについても理解できる．
8	統計的仮説検定②（P値と信頼区間）	「統計的有意性とP値に関するASA声明」に基づいたP値の定義について，その概要を理解できる．また，検定と信頼区間が表裏一体の関係であることが理解できる
9	統計的仮説検定③（カイ二乗検定）	統計的仮説検定の例として，カイ二乗検定を理解できる．
10	統計的仮説検定④（対応のある・ないt検定）	統計的仮説検定の例として，対応のある・ないt検定を理解できる．
11	統計的仮説検定⑤（ノンパラメトリック検定）	統計的仮説検定の例として，ノンパラメトリック検定を理解できる．
12	回帰分析①（一般線形モデル）	一般線形モデルを用いた解析の例として，一元配置分散分析，重回帰分析を理解できる．
13	回帰分析②（一般化線形モデル）	一般化線形モデルを用いた解析の例として，ロジスティック回帰分析を理解できる．
14	医療統計学関連トピック①（リスク差・リスク比・オッズ比）	リスクの考え方やオッズの考え方を理解できる．
15	医療統計学関連トピック②（診断能力の評価）	感度，特異度，陽性尤度比の意味が理解でき，実際に計算できるようになる．

教科書	特になし	履修条件	15回の講義の内，4回以上欠席の場合は単位が取得できない
参考書	上村鋼平ら，生物統計学の道標：研究デザインから論文報告までをより深く理解するための24講	留意事項等	講義の最中に不明な点が現れた時は，いつでも教員にアクセスする事
成績評価	中間試験、期末試験、小テストにより総合的に評価		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
医療情報科学演習Ⅰ	外舘　洸平	1	1	前期
授業概要	パソコン操作を不便なく行うことができ、ICT化する臨床現場に対応できるように推奨する情報収集のあり方などを、講義・演習を通して習得できる			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	オリエンテーション	パソコンの基本的な操作を習得することができる
2	Gmail、Google Classroom	メールでの連絡方法、およびGoogle Classroomを使用した課題の提出方法を習得することができる
3	OneNote	OneNoteを使用して授業のノートをとることができる
4	Word	文章を入力などの基本的な操作、レイアウト変更や図表の挿入ができ、見やすい文章を作成することができる
5	PowerPoint	基本的な操作を理解し、プレゼンテーション用の資料を作成することができる
6	Excel	基本的な操作を理解し、グラフ作成、関数を使用した計算を行うことができる
7	情報リテラシー①	自他の個人情報の重要性を知り，個人情報を守るために正しく対処できる
8	情報リテラシー②	文献検索の意義を理解し、文献検索を行うことができる。また、著作物に関する権利を理解し、正しく用いることができる。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書	資料配布	履修条件	8回の講義なので，3回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	必要に応じて提示する	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	各回で課題の提出を求め、提出物が指定された条件を満たしているか採点する		
備考	基本操作の紹介は行うが、操作の習熟は各自の自己練習に期待したい		

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
医療情報科学演習II	古館　裕大	1	1	前期
授業概要	リハビリテーション領域で急激に進みつつあるDX（医療DX）について，その基盤となる技術に触れる．本科目は医療DX教育を成す科目の1つである．			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	センシング演習	講義の概要を理解できる．フローチャートの基本的な考え方が理解できる．
2		フローチャートを通して"かつ"や"または"などの条件を考えることができる
3		明るさセンサや距離センサを利用したプログラミングを行い，micro:bitで生体計測をすることができる
4		角度センサや加速度センサを利用したプログラミングを行い，micro:bitで生体計測をすることができる
5		スマホとmicro:bitを連携したプログラムの開発を通して，データの通信・管理の役割を担うICTの仕組みを理解できる
6		
7		医療現場に存在するニーズや解決すべき課題に対し，ICTを用いた手法を提案できる
8	医療情報科学関連トピック②（ロボットとAI）	医療現場において身近な存在となりつつあるロボットやAIなど，より発展した技術の知見を深めることができる．
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書	特に無し	履修条件	講義・演習ではPCを使用する8回の講義なので，3回以上欠席すると単位を取得できない
参考書	特に無し	留意事項等	日常的にPCを利用し，PCの扱いに慣れ親しんでおく事
成績評価	期末試験と課題により総合的に評価		
備考			

□　選択　☑　必修		☑　講義　□　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
解剖学	千葉　馨	2	1	前期

授業概要	リハビリテーションの基礎知識となる人体の構造、部位名称等について覚え、理解し、後に学ぶ疾患や障害学、治療学の土台となるべく力を培う。
到達目標	・人体の各部位名称を覚える、書ける、人体の構成を理解する（解剖用語のアウトプットも含む）骨格筋について髄節、神経支配、作用、起始停止について覚える。

授業計画

1	オリエンテーション	解剖学の用語と解剖学的体位と平面　人体の各部名称など（頭頸部、上肢下肢、体幹）
2	細胞	細胞
3	発生	ヒトの発生
4	人体の組織	骨の発生と骨格
5	消化器系の概要	消化器系の器官と働きの概要について学ぶ
6	泌尿器系の概要	泌尿器系の器官と働きの概要について学ぶ
7	循環器系の概要	循環器系の器官と働きの概要について学ぶ
8	呼吸器系の概要	循環器系の器官と働きの概要について学ぶ
9	神経系１	中枢神経と末梢神経、脊髄について学ぶ
10	神経系２	脊柱と椎骨、脊髄神経について学ぶ
11	骨格系１	肩甲帯の筋
12	骨格系２	中間テスト／腕神経叢
13	骨格筋１	肘関節の筋①　髄節、支配神経、作用、起始停止
14	骨格筋２	肘関節の筋②　髄節、支配神経、作用、起始停止
15	骨格筋３	手関節の筋①髄節、支配神経、作用、起始停止
16	骨格筋４	手関節の筋②髄節、支配神経、作用、起始停止
17	骨格筋５	手指の筋の構造と手指の筋①髄節、支配神経、作用、起始停止
18	骨格筋６	手指の筋（手内筋）②髄節、支配神経、作用、起始停止
19	骨格筋７	下肢の構造
20	骨格筋８	股関節の筋①髄節、支配神経、作用、起始停止
21	骨格筋９	股関節の筋②髄節、支配神経、作用、起始停止
22	骨格筋１０	股関節の筋③髄節、支配神経、作用、起始停止
23	骨格筋１１	膝関節の筋①髄節、支配神経、作用、起始停止
24	骨格筋１２	膝関節の筋②髄節、支配神経、作用、起始停止
25	骨格筋１３	足関節の構造
26	骨格筋１４	足関節の筋①髄節、支配神経、作用、起始停止
27	骨格筋１５	足関節の筋②髄節、支配神経、作用、起始停止
28	体幹の構造１	背筋　髄節、支配神経、作用、起始停止
29	体幹の構造２	胸部の筋（呼吸筋）髄節、支配神経、作用、起始停止
30	体幹の構造３	腹部の筋　髄節、支配神経、作用、起始停止

教科書	グレイ解剖学第５版	履修条件	全講義の1/5を欠席すると単位を取得できない
参考書	標準理学療法作業療法解剖学第６版	留意事項等	・適宜小テストを不定期に行うので授業で行った部分の理解・知識の補完を常に行うこと

成績評価	中間および期末試験、出席状態など授業態度、提出物について成績の対象とする。 60点以上「C評定」で単位修得となる
備考	授業終了後の理解度アンケート、不定期な小テスト等を実施する。積極的な質問を歓迎する。

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
解剖学演習	千葉　馨	1	1	後期

授業概要	神経系，消化器系，呼吸器系，泌尿生殖器系，内分泌系について系統的に学習する。また学習の理解度を深めるためにグループでの討議など振り返りの時間を取り入れる。小テストをこまめに実施して理解度を確認する。 本授業では担当教員の臨床における理学療法士としての実務経験ならびにこれまでの肉眼解剖教育の経験を活かして講義を展開する。
到達目標	解剖学講義を踏まえ、脳や脈管、内臓系について説明できる。

授業計画

1	大脳（終脳）	大脳の形態と機能局在について説明できる
2	大脳の内部構造と白質	大脳の内部に存在する神経核（大脳基底核など）と白質を構成する神経線維について説明できる
3	間脳・脳幹	間脳（視床，視床下部，視床上部）ならびに脳幹（中脳－橋－延髄）の構造と機能ついて説明できる
4	小脳・脊髄	小脳，脊髄の構造と機能 について説明できる
5	伝導路	錐体路や錐体外路などの下行路と脊髄視床路などの上行路について説明できる
6	髄膜と脳脊髄液，脳室系 脳の血管	内頸動脈系と椎骨動脈系，動脈輪，脳室と脳脊髄液の循環経路について説明できる
7	脳神経の種類と特徴	脳神経とは何か，その構造と機能について説明できる
8	自律神経系	自律神経系の構造と機能について説明できる
9	消化器系	・口腔から肛門に至る消化管の構造と機能を説明できる。 ・消化に必要な酵素を産生・貯蔵する付属器官についてその構造と機能を説明できる ・消化管に分布する動脈・静脈について説明できる
10		
11	呼吸器系	鼻腔から肺に至る呼吸器の構造と機能を説明できる
12		
13	泌尿・生殖器系	腎臓や膀胱，尿道などの泌尿器と精巣や卵巣，子宮などの生殖器について男女の違いも含めてその構造と機能を説明できる
14		
15	内分泌系	内分泌系の構造と機能について説明できる

教科書	・塩田浩平，他監：グレイ解剖学 原著第4版	履修条件	15回の講義の内，4回以上欠席の場合は定期試験を受験できない

参考書	・加藤征，他編：新解剖学 フルカラー新装版 第7版（Qシリーズ） ・松村譲兒：イラスト解剖学 第 9 版	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・小テスト，期末試験の内容をもって総合的に評価する ・総計の60%以上を合格とする		
備考	・授業資料を配布するので忘れずに授業に持ってくること ・分からない点を質問するなど教員をうまく活用し，知識の定着に努めること		

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
生理学演習	石田　裕二	1	1	後期
授業概要	生理学演習では生理学で学んだ知識を具体的に演習を通じて体験し，臨床に必要不可欠な知識の理解を深める			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	循環器系の計測	循環動態と血圧の関係を理解し医学的根拠を持って血圧を計測することができる
2	心電図　①	心電図の基礎的なメカニズムを理解することができる
3	心電図　②	標準12誘導と胸部単極誘導について臨床的意味を説明できるようになる
4	心電図　③	異常心電図と正常心電図を比較し，病的問題点を評価できるようになる
5	心電図　④	標準12誘導を具体的に計測し，その臨床的技術を習得する
6	呼吸器系　①	呼吸器疾患の臨床像とスパイログラムの関係を理解できる
7	呼吸器系　②	スパイログラムを用いた肺機能の計測を体験し理解を深める
8	呼吸循環　①	有酸素運動と無酸素運動，ATポイントなどの意味を理解する
9	呼吸循環　②	運動負荷試験を体験し臨床的意義や基礎的知識を習得する
10	筋電図　①	筋電図の波形についてその意味を理解できる
11	筋電図　②	筋電図データの解析についてその意味と手法を理解できる
12	筋電図　③	表面筋電計を用いて具体的に計測し波形と骨格筋・神経制御の実態を把握できる
13	筋電図　④	誘発筋電計を用いてF波やＨ波の計測し，脊髄の興奮性について理解を深める
14	筋電図　⑤	誘発筋電計を用いて末梢神経伝導速度を計測し，臨床的意義を理解する
15	感覚検査	表在・深部感覚の具体的な計測から，神経障害の症状についての理解を深める

教科書	最新　リハビリテーション基礎講座　生理学 （医歯薬出版：電子教科書棚内）	履修条件	電子教科書にて授業を進行する　PCを用意すること15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	生体の仕組み標準テキスト第3版　新しい解剖生理 （医学映像教育センター）	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

□　選択　☑　必修			☑　講義　□　演習　□　実習	
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
人間発達学	相馬　栄大	1	1	前期
授業概要	人が成長する過程について中枢神経系の発達を中心に社会的に活躍し老年期に至るまでを理解し、その各ステージでの理学療法士・作業療法士の関わる視点を理解できる			
到達目標	新生児期からの発達過程に関わる神経系の理解と身体活動について理解できる			

授業計画

1	正常発達について	発達の原則、ヒトの正常発達について
2	発達の概念	胎芽と胎児の発達過程に始まり、人間発達期、発達の主な原則などが理解できる
3	姿勢反射、反応とは	発達過程における反射・反応について学び、正常な発達の獲得の背景である中枢神経の成熟、筋と骨格の成長について理解できる
4	脊髄レベルの反射	正常児の脊髄レベルの反射について出現時期、消失時期、どのような反射かを理解できる
5	脳幹レベルの反射	正常児の脳幹レベルの反射について出現時期、消失時期、どのような反射かを理解できる
6	中脳レベルの反応	正常児の中脳レベルの反応について出現時期、消失時期、どのような反射かを理解できる
7	中間試験 大脳レベルの反応①	講義の１～７回目の内容について中間テスト（30分程度）を行う
8	大脳レベルの反応②	正常時の大脳レベルの反応について出現時期、消失時期、どのような反射かを理解できる
9	運動の発達①	１～３歳までに見られる姿勢反射および反応獲得について理解できる
10	運動の発達②	６歳までに見られる姿勢反射および反応獲得について理解できる
11	上肢機能の発達	ヒトの上肢機能を学び、成長過程次獲得できる運動等について理解できる
12	感覚・知覚・認知・社会性の発達	環境の刺激情報処理である感覚、知覚、認知について学び、感覚システムの発達について理解できる
13	ADLの発達（遊び・食事・排泄・更衣）	中枢神経系の発達と日常生活活動動作（ADL）の獲得の関係性を理解できる
14	発達検査	遠城寺式乳幼児分析的発達検査、日本版デンバー式発達スクリーニング検査、日本版ミラー幼児発達
15	学童・青年・成人・老年期の発達	エリクソン「８つの発達段階」について理解できる

教科書	上杉雅之監修 イラストでわかる人間発達学 医師薬出版株式会社	履修条件	前講義の1/５以上を欠席すると単位を取得できない
参考書	講義資料中に示す	留意事項等	適宜小テストを不定期に行うので授業で行った部分の理解・知識の補完を常に行うこと
成績評価	15回の講義の中で、適宜小テストを実施する。 小テストの結果と中間および期末試験、提出物を総合して成績に反映させる。		
備考	授業終了後の理解度アンケート、不定期な小テスト等を実施する。積極的な質問を歓迎する。		

函館市医師会看護・リハビリテーション学院　理学療法学科

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
運動学	羽澤　晃士	2	1	前期
授業概要	運動学は身体運動の仕組みに関する学問であり，その理論的基盤をなす専門基礎科目である。本科目では，正常な身体運動を理解するうえで必要な運動器の基本構造と機能を学ぶ。さらに，身体各部位の関節構造と機能を関節運動と関連づけて学習し，機能解剖学的視点から四肢，脊柱・体幹，頭部における各関節運動の仕組みを深める。			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	オリエンテーション	本授業の概要ならびに運動学の学問領域について理解できる
2	骨の構造と機能	骨格を形成する骨の名称，骨の基本構造と機能について理解できる
3	関節の構造と機能①	関節の基本構造，関節の分類について理解できる
4	関節の構造と機能②	関節運動の表し方，関節包内における関節運動について理解できる
5	関節の構造と機能③	主要な関節とその運動方向について理解できる
6	骨格筋の構造と機能①	骨格筋の構造について理解できる
7	骨格筋の構造と機能②	筋の収縮機序，活動電位について理解できる
8	骨格筋の構造と機能③	筋線維の種類，運動単位，神経支配比について理解できる
9	骨格筋の構造と機能④	筋の収縮様式，筋のはたらき，筋肥大と筋萎縮について理解できる
10	骨格筋の構造と機能⑤	筋の静止張力と活動張力について理解できる
11	生体力学①	関節モーメント，外力と内力について理解できる
12	生体力学②	身体とてこ，筋力と重力について理解できる
13	体位と重心①	体位と構え，基本肢位，重心が規定される要素について理解できる
14	体位と重心②	基本的立位姿勢の理想的アライメントについて理解できる
15	肩複合体の運動学①	肩複合体の構造について理解できる
16	肩複合体の運動学②	肩複合体の関節運動について理解できる
17	肩複合体の運動学③	肩複合体の関節運動における靭帯の作用について理解できる
18	肩複合体の運動学④	肩複合体の関節運動における筋の作用について理解できる

19	肘関節・前腕の運動学①	肘関節・前腕の構造，関節運動について理解できる
20	肘関節・前腕の運動学②	肘関節・前腕の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる
21	手関節の運動学①	手関節の構造，関節運動について理解できる
22	手関節の運動学②	手関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる
23	手指の運動学①	手指関節の構造，関節運動について理解できる
24	手指の運動学②	手指関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる
25	股関節の運動学①	股関節の構造，関節運動について理解できる
26	股関節の運動学②	股関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる
27	膝関節の運動学①	膝関節の構造，関節運動について理解できる
28	膝関節の運動学②	膝関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる
29	足関節の運動学①	足関節の構造，関節運動について理解できる
30	足関節の運動学②	足関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる

教科書	・基礎運動学	履修条件	30回の講義なので，7回以上欠席すると期末試験を受験できない
参考書	・15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・30回の講義のなかで，適宜小テストを実施する ・小テスト，期末試験の結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
運動学演習	羽澤　晃士	1	1	後期
授業概要	前期に引き続き，正常な身体運動を理解するうえで必要な運動器の基本構造と機能を学び，身体運動・動作の仕組みについて理解を深める。また，正常歩行に関する基本的な知識を身につけるとともに，各関節運動時に作用する筋が即座にイメージできるよう演習課題を実施する。			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	脊柱・体幹の運動学①	脊柱全体の基本構造と機能について理解できる
2	脊柱・体幹の運動学②	頸椎の構造，頸部の運動と関与する筋の作用について理解できる
3	脊柱・体幹の運動学③	胸郭の構造，胸部の運動と関与する筋の作用について理解できる
4	脊柱・体幹の運動学④	腰椎の構造，腰部の運動と関与する筋の作用について理解できる
5	顔面と頭部の運動学	顎関節の構造と関節運動，咀嚼筋と顔面筋（表情筋）の作用について理解できる
6	正常歩行①	正常歩行の基本概念（歩行周期）について理解できる
7	正常歩行②	正常歩行時の重心移動や各関節運動について理解できる
8	正常歩行③	正常歩行時の筋活動について理解できる
9	正常歩行④	正常歩行時の床反力について理解できる
10	上肢の筋作用①	上肢の関節運動時における筋作用を挙げることができる
11	上肢の筋作用②	
12	上肢の筋作用③	
13	下肢の筋作用①	下肢の関節運動時における筋作用を挙げることができる
14	下肢の筋作用②	
15	下肢の筋作用③	

教科書	・基礎運動学	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると期末試験を受験できない
参考書	・15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで，適宜小テスト，課題作成を実施する ・小テスト，期末試験，提出物の結果を総合して成績に反映させる		
備考			

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
臨床運動学演習	相馬　栄大	1	2	前期

授業概要	運動学で学習した内容を臨床的視点で身体運動について理解し、説明できる。
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	オリエンテーション レポートの書き方 二関節筋のまとめ	本講義の概要を理解する 演習時のレポートの書き方について理解する
2	二関節筋と関節可動域	二関節筋による関節可動域への影響について説明できる
3	関節運動と筋収縮	求心性収縮・遠心性収縮・等尺性収縮について説明できる
4	OKCとCKC	OKCとCKCについて説明できる 各筋におけるOKC, CKCの運動を考案し，その時の筋の収縮様式に関して説明できる
5		
6	力とモーメントと反作用	関節角度や重心位置による筋張力の変化について説明できる モーメントについて説明できる
7	歩行①	歩行に関する基本的な知識を理解することができる
8	歩行②	歩行に関する用語を理解するとともに，歩行の各層について調べることができる
9		
10	歩行③	歩行についてグループでまとめることができる
11		
12		
13	歩行④	歩行についてグループで発表することができる
14		
15	歩行⑤	歩行の各相における筋活動について説明することができる

教科書	『基本動作の評価と治療アプローチ （メジカルビュー社）』 『観察による歩行分析　（医学書院）』	履修条件	講義・演習ではPCを使用することもある。15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	『基礎運動学（医歯薬出版）』 「実践！動作分析 第2版（医歯薬出版）」	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	15回の講義の中で、適宜小テストを実施する。 小テストの結果と、定期テストの結果および課題提出を総合して成績に反映させる。		
備考	運動学・運動学演習を習得していることを前提に講義・演習を実施する		

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
機能解剖学演習	千葉　馨	1	2	後期

授業概要	解剖学・運動学の知識を統合し，身体運動を検査・治療方法等と関連付けられるように講義演習を行う。 本授業では担当教員の臨床における理学療法士としての実務経験ならびにこれまでの肉眼解剖教育の経験を活かして講義を展開する。
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	外皮系の構造と機能	外皮の構造と機能を理解するとともに，分布する感覚受容器について説明できる。
2	骨格系の構造	各骨の名称や関節について説明できる。
3	肩甲帯・肩関節の構造と運動	肩関節を構成する骨格・靭帯を見直し，肩甲帯ならびに肩関節の構造・運動・特徴を説明できる。
4	肘関節・手関節・手指の構造と運動	肘関節・手関節・手指を構成する骨格・靭帯を見直し，これらの構造・運動・特徴を説明できる。
5	骨盤・股関節の構造と運動	骨盤・股関節を構成する骨格・靭帯を見直し，これらの構造・運動・特徴を説明できる。
6	膝関節・足関節の構造と運動	膝関節・足関節を構成する骨格・靭帯を見直し，これらの構造・運動・特徴を説明できる。
7	足部の構造と運動	足部を構成する骨格・靭帯を見直し，これらの構造・運動・特徴を説明できる。
8	骨格構造総復習	骨格構造について各骨の名称や形状，特徴，連結について骨格模型を用いて説明できる
9	肩甲帯・肩関節の運動に関与する筋と運動	肩甲帯・肩関節に作用する筋を見直し，これらの運動を説明できる。
10	肘関節・手関節・手指の運動に関与する筋と運動	肘関節・手関節・手指に作用する筋を見直し，これらの運動を説明できる。
11	骨盤・股関節の運動に関与する筋と運動	骨盤・股関節に作用する筋を見直し，これらの運動を説明できる。
12	膝関節・足関節の運動に関与する筋と運動	膝関節・足関節に作用する筋を見直し，これらの運動を説明できる。
13	足部の運動に関与する筋と運動	足部に作用する筋を見直し，これらの運動を説明できる。
14	末梢神経系の構造と支配領域	運動の情報を伝える末梢神経系の構造，特に神経叢について理解し，その分布について説明できる
15	筋総復習	各筋の起始・停止・作用を説明できる

教科書	授業は配布資料に基づいて実施する	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	・塩田浩平，他監：グレイ解剖学 原著第4版 ・中村隆一，他：基礎運動学 第6版補訂	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・中間テスト，期末試験の内容をもって総合的に評価する ・総計の60%以上を合格とする		
備考	・授業資料を配布するので忘れずに授業に持ってくること ・分からない点を質問するなど教員をうまく活用し，知識の定着に努めること		

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
病理学	楢木　広一	1	1	後期

授業概要	病理学を構成する項目について種々理解できるように講義を行う
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	総論　①	病理学の概要，病因論について理解できる
2	総論　②	退行性病変・進行性病変について理解できる
3	総論　③	代謝障害，循環障害について理解できる
4	総論　④	免疫について理解できる
5	総論　⑤	炎症，感染症について理解できる
6	総論　⑥	腫瘍，老化について理解できる
7	総論　⑦	先天異常・奇形について理解できる
8	各論	造血器について理解できる

教科書	病理学　標準理学療法学・作業療法学	履修条件	8回の講義なので，2回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・8回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
内部障害学	小西 宏明　竹澤 周子 髙橋 清彦　北川 はるみ	1	2	前期
授業概要	基礎的内容の内科学領域の内容を論じる　内科領域の疾患の概念，診断学の基礎，生活習慣病の予防や栄養指導などにも触れる			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画		
1	消化器系疾患　①	消化器の構造と機能の概要について理解できる
2	消化器系疾患　②	各消化器疾患の概要および診断、治療について理解できる
3	代謝性疾患	代表的な生活習慣病である糖尿病の診断，治療の概略を理解できる
4	内分泌系疾患	脳下垂体，上皮小体，副腎などの内分泌器官の疾患・障害について概略を理解できる
5	循環系の疾患　①	心臓、血管の構造と機能の概要について理解できる
6	循環系の疾患　②	高血圧，動脈硬化など血管病変疾患の概要および診断、治療について理解できる
7	循環系の疾患　③	虚血性心疾患の概要および診断、治療について理解できる
8	循環系の疾患　④	不整脈の概要および診断、治療について理解できる
9	呼吸器系の疾患　①	呼吸器の構造と機能の概要について理解できる
10	呼吸器系の疾患　②	閉塞性換気障害の概要および診断、治療について理解できる
11	呼吸器系の疾患　③	拘束性換気障害の概要および診断、治療について理解できる
12	呼吸器系の疾患　④	各種の肺疾患を分類し，その症状と循環器系への影響について説明できる
13	栄養　①	在宅医療における栄養管理の意義や方法を理解できる
14	栄養　②	具体的に行われている在宅医療における栄養指導について理解できる
15	栄養　③	NST（Nutrition Support Team）の機能をふまえ，多職種連携にけるOT・PTの役割と活動内容について理解できる

教科書	なるほどなっとく！内科学	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
神経障害学Ⅰ	佐藤　速太	1	2	前期
授業概要	神経障害はPT・OTの治療対象の中核をなすものであり，臨床神経学の知識は直接治療技術に反映する　本科目は神経解剖から症候学まで必要不可欠かつ基本的な内容を網羅する			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	神経機能解剖　①	中枢神経系（脳・脊髄）の解剖，伝導路，が理解できる
2	神経機能解剖　②	脳神経を再確認して，その機能について理解を深め，各疾患により発生する障害や症状について神経学的に説明できる
3	神経機能解剖　③	
4	リハビリテーションに深く関係する神経症状	上位運動ニューロン障害や下位運動ニューロン障害の症状の相違点を理解したうえで神経学的サインを理解できるようになる
5	神経症候学　①	「反射学」をベースにしたクライアントの神経学的な反応を理解し，障害の本質が推測できるようになる
6	神経症候学　②	大脳基底核や小脳の障害によって生じる錐体外路障害について理解し、疾患や臨床所見を想像できるようになる。
7	神経症候学　③	中枢神経の損傷によって生じる脳血管疾患などの中枢神経疾患にまつわる障害像を推測できるようになる
8	振り返り	前半部分で理解した中枢神経系をまとめ、知識の確認を行う
9	神経変性疾患の症候学　①	認知症など大脳皮質の変性によって生じる疾患の症状から、神経学的な意味を理解できる。
10	神経変性疾患の症候学　②	前回に引き続き大脳基底核の変性によって生じる疾患の症状から、神経学的な意味を理解できる。
11	神経筋疾患　各論　①	リハビリテーションと深くかかわる神経筋疾患について論じ、神経学的な視野を広げ，理学療法や作業療法の具体的な介入について理解することができるようになる
12	神経筋疾患　各論　②	
13	神経筋疾患　各論　③	
14	神経筋疾患　各論　④	
15	神経筋疾患　各論　⑤	

教科書	病気がみえる　vol.7　脳・神経 メディックメディア社	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	神経診察クローズアップ正しい病巣診断のコツ メディカルビュー社	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
神経障害学Ⅱ	平塚　健太	1	2	前期

授業概要	神経障害学Ⅰの内容を踏まえ，本科目は具体的な神経疾患とその症状・治療について論じる
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	脳血管疾患　①	多種の脳血管疾患の疫学と診断について理解できる
2	脳血管疾患　②	脳血管疾患に起因する症状や治療法について理解できる
3	脳卒中　①	脳卒中の危険因子・脳卒中の分類及び特徴について理解できる
4	脳卒中　②	脳卒中の分類別における症状や治療について理解できる
5	脳卒中　③	脳卒中の急性期における治療や特徴について理解できる
6	脳卒中　④	脳卒中の急性期におけるリスク管理について理解できる
7	脳卒中　⑤	脳卒中の回復期及び維持期における治療や特徴について理解できる
8	認知症/高次脳機能障害①	認知症・失語症・失認・失行等の高次脳機能障害の特徴について理解できる
9	認知症/高次脳機能障害②	認知症・高次脳機能障害の治療・姿勢定位障害について理解できる
10	パーキンソン病	高齢者によくみられるパーキンソン病の症状や治療法を説明できる
11	神経筋疾患　①	筋ジストロフィーやALSの特徴について理解できる
12	神経筋疾患　②	各種の変性疾患(SCD・MS・PSP等)について理解できる
13	脊髄損傷	脊髄損傷の症状，高位診断，神経学的評価法などを説明できる
14	医用画像　①	実際の症例や画像情報などから症状・障害を推測し医学的に考察できる
15	医用画像　②	

教科書	病気がみえる vol.7 脳・神経	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	適宜提示	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考	筋ジストロフィーやALSの特徴について理解できる		

□　選択　☑　必修			☑　講義　□　演習　□　実習	
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
精神医学	石田　裕二	1	1	後期

授業概要	精神に関する基礎知識から病理までの知識を身に着け，リハビリテーションを前提に理解を進めることができるよう講義を行う
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	総論　①	精神医学とは何か，その概略を理解できる
2	総論　②	精神疾患の分類，症状論，検査，神経症性障害とその周辺疾患について概略を理解できる
3	総論　③	様々な治療（薬物療法，精神療法，リハビリテーション，心理学的アプローチ，認知行動療法など）について，その概略を理解できる
4	総論　④	認知症，器質性精神病，薬剤性精神障害について理解できる
5	各論　①　気分障害	気分障害の分類や症状について理解できる
6	各論　②　統合失調症	統合失調症の分類や症状について理解できる
7	各論　③　神経症性障害	様々な神経症領域の障害について，その症状や環境要因の関係などを理解できる
8	各論　④　人格障害	様々な人格障害について，その症状や環境要因の関係などを理解できる
9	各論　⑤　依存症	アルコール依存や薬物依存などの病態とそれらの治療について理解できる
10	各論　⑥ 自閉症スペクトラム	自閉症スペクトラム症（ASD）や広汎性発達障害について理解できる
11	各論　⑦　てんかん	てんかんの分類や症状について理解できる
12	各論　⑧　認知症	認知症の原因疾患，分類，症状の特徴などが理解できる
13	治療学　①	各種の精神疾患に対する治療的介入法（薬物療法，精神療法，心理学的アプローチ，作業療法など）について，期待できる効果について理解できる
14	治療学　②	
15	リエゾン精神医学	リエゾン精神医学における作業療法士・理学療法士の役割について理解できる

教科書	精神医学　第4版増補版（医学書院）	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	精神医学テキスト　改訂第5版（南江堂）	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
老年期障害学	平塚 健太　佐藤 嶺　小笠原 啓太	1	1	後期

授業概要	老年期の特徴を理解し，我が国における老年医学，高齢者医療について理解できるよう講義を行う
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	老年医学とリハビリテーションについて	老年期医学とリハビリテーションの関係について理解できる
2	加齢に伴う変化　①	老年期の感覚機能の変化について理解できる
3	加齢に伴う変化　②	老年期の生理機能形態学的変化について理解できる
4	加齢に伴う変化　③	老年期の運動・認知・精神心理面の変化について理解できる
5	高齢者の機能評価①	高齢者特有の機能評価について理解できる
6	高齢者の機能評価②	高齢者特有の機能評価について理解し、実践できる
7	脱水と代謝	加齢に起因する代謝障害について理解できる
8	栄養と服薬アドヒアランス	高齢者に必要な栄養や評価、服薬アドヒアランスについて理解できる
9	老年期症候群について①	代表的な老年期症候群について理解できる
10	老年期症候群について②	代表的な老年期症候群について理解できる
11	循環器疾患について	代表的な老年期症候群について理解できる
12	呼吸器疾患について	代表的な循環疾患について理解できる
13	高齢者のリハビリテーション①	高齢者のリハビリテーションについて理解できる
14	高齢者のリハビリテーション②	高齢者のリハビリテーションに必要なリスク管理について理解できる
15	高齢者の終末期医療について	緩和ケア・ホスピスなど終末期医療と高齢者との関係を理解できる

教科書	老年学　標準理学療法学・作業療法学	履修条件	15回の講義なので4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	適宜提示する	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

□　選択　☑　必修			☑　講義　□　演習　□　実習	
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
運動器障害学	平塚健太　石川竜乃介	1	2	前期

授業概要	運動器に纏わる疾患について発生と治療法について知り，理解できるよう講義を行う
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	総論①　骨の発生と成長 軟骨・関節の基本構造	骨の発生と成長と軟骨・関節の基本構造について理解できる
2	総論② 神経損傷・末梢神経障害	末梢神経障害の症状と治療について理解できる
3	各論①　肩・上肢	肩に見られる様々な疾患の症状や障害について学び，整形外科的な治療について理解できる
4	各論②　肩・上肢	肘に見られる様々な疾患の症状や障害について学び，整形外科的な治療について理解できる
5	各論③　肩・上肢	前腕・手に見られる様々な疾患の症状や障害について学び，整形外科的な治療について理解できる
6	各論⑤股関節・膝・足部	変形性股関節症の診断（画像）と観血的治療やその他について理解できる
7	各論⑥股関節・膝・足部	変形性膝関節症の診断（画像）と観血的治療やその他について理解できる
8	各論⑥股関節・膝・足部	靭帯損傷の診断（画像）と観血的治療やその他について理解できる
9	各論⑦股関節・膝・足部	下肢の骨折（大腿骨頸部骨折等）の診断（画像）と観血的治療やその他について理解できる
10	各論⑧股関節・膝・足部	切断の診断（画像）と観血的治療やその他について理解できる
11	各論⑨　脊柱疾患	圧迫骨折・破裂骨折・狭窄症の診断（画像）と観血的治療やその他について理解できる
12	各論⑩　脊柱疾患	頚髄症・末梢神経障害（上肢を中心に）の診断（画像）と観血的治療やその他について理解できる
13	各論⑪　脊柱疾患	腰痛・椎間板ヘルニアの診断（画像）と観血的治療やその他について理解できる
14	各論⑨　　褥瘡	褥瘡の病態について理解を深め，それらの診断や治療法について概略を理解できる
15	各論⑩　　熱傷	熱傷の深度や面積の判定，気道熱傷など，熱傷の病態について理解を深め，それらの治療法について概略を理解できる

教科書	病気がみえるvol.11　運動器・整形外科	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

函館市医師会看護・リハビリテーション学院　理学療法学科

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
薬理学	今島　昌三	1	1	後期
授業概要	リハビリテーション分野において，必要なる薬理学の概念と知識を習得する　薬物の体内動態，薬物に影響を及ぼしうる要因，さらに薬物の副作用についての知識を習得する　授業内容に準じて知識を習得し，リハビリテーション医療に生かせる能力を身につける			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	オリエンテーション　（薬理学の基礎知識）	人体にとって「異物」であるクスリとは何か，臨床薬理学の概念を説明できる
2	抗感染症薬/ 消炎鎮痛薬	抗ウィルス剤や抗菌剤,ワクチンの効能についての理解 副腎皮質ステロイド剤　NSAIDs　などの作用・効果の概略を説明できる
3	自律神経系作用薬/抗アレルギー薬	交感神経や副交感神経に作用する薬，α遮断薬やβ遮断薬の作用について アレルギーの分類やアナフィラキシーなどの理解と対応する薬剤の効果
4	呼吸器系の薬/循環器系の薬　①	COPDや間質性肺炎などに投与される薬剤について説明できる 降圧剤および昇圧剤の薬理作用について説明できる
5	循環器系の薬②	抗不整脈剤や冠動脈に作用する薬などの概略を説明できる
6	神経系の薬①/神経系の薬②	脳浮腫の改善，脳機能の賦活，筋緊張の調整などに作用する薬剤について理解する パーキンソン病などの錐体外路障害，認知症に対する薬剤について理解する
7	精神科領域の薬①/精神科領域の薬②	抗精神病薬の薬理効果について説明できる 双極性障害の薬，抗てんかん剤，抗不安剤，などの向精神薬の概略を理解できる
8	抗悪性腫瘍薬/内分泌系の薬剤	悪性腫瘍の種類とそれに対応する薬剤の効果について理解できる 代謝異常やホルモン異常で惹起される症状とそれに対応する薬剤の効果

教科書	シンプル薬理学改訂第5版	履修条件	授業の５分１欠席で期末試験の受験資格を失う
参考書	検討中	留意事項等	予習復習を怠らないこと
成績評価	・テストは９回目に実施する。テストは選択問題になるのでまんべんなく復習して理解すること		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
発達障害学	高橋　和俊	1	2	前期

授業概要	子どもの発達についての考え方とリハビリテーションについて理解できるように講義を行う
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	人間の発達過程	発達段階諸説について復習を行い，発達過程について理解できる
2	NICU対象児	NICU対象児ついての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる
3	脳性麻痺1	脳性麻痺児ついての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる
4	脳性麻痺2	脳性麻痺児ついての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる
5	脳性麻痺3	脳性麻痺児ついての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる
6	脳性麻痺4	脳性麻痺児ついての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる
7	脳性麻痺5	脳性麻痺児ついての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる
8	脳性麻痺6	脳性麻痺児ついての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる
9	進行性筋ジストロフィ/骨系統系疾患	筋ジストロフィ児ついての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる
10	染色体起因性障害	染色体起因性障害ついての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる
11	二分脊椎	二分脊椎児ついての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる
12	知的障害	知的障害児ついての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる
13	神経発達症１	神経発達症についての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる
14	神経発達症２	神経発達症についての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる
15	神経発達症３	神経発達症についての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる

教科書	適宜	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	適宜	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
臨床心理学	諏訪　麻依子	1	1	後期

授業概要	クライエントへの心理的な評価が行える知識と技術を理解し，臨床的な知識を身につけることができるよう講義を行う
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	オリエンテーション	臨床心理学の歴史から現代の考え方までを知り，理解することができる
2	障害受容	障害受容の過程について理解できる
3	人格理論	性格の類型論と特性論を理解できる
4	学習理論	学習の成立，強化因子，条件付けなどが理解できる
5	防衛機制　①	防衛機制とは何かその概略を理解する
6	防衛機制　②	様々な防衛機制について，その特徴を理解できる
7	心理療法総論	心理療法の概略，治療者とクライエントの心理的反応などを理解できる
8	心理発達	発達段階と発達過程について理解できる
9	面接技法	心理療法における基本的技法について理解できる
10	心理療法各論　①	森田療法，自律訓練法，集団精神療法について理解できる
11	心理療法各論　②	精神分析療法，行動療法，内観療法について理解できる
12	心理療法各論　③	来談者中心療法，箱庭療法，催眠療法，実存分析について理解できる
13	心理療法各論　④	認知行動療法を中心に，現代の臨床技術について理解できる
14	心理検査　①	様々な人格検査の特徴と技法について理解できる
15	心理検査　②	様々な（広義の）知能検査について理解できる

教科書	面白いほどよくわかる！臨床心理学	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書		留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
救急医学	武山　佳洋	1	2	後期

授業概要	本科目では主な外傷と疾病について応急処置の方法やその必要性を説明する　これらの内容はフィジカルアセスメントに応用できるものとする
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	救急医学序論	救急医療とは何か、そのコンセプトを理解し、実際の救急医療がどのように展開されているのかを説明できるようになる
2	皮膚損傷	皮膚の構造や機能を理解し，皮膚の損傷に対する応急処置ができるようになる
3	運動器障害	脱臼，捻挫、骨折に対する応急処置ができるようになる
4	出　血	出血で引き起こされる失血性ショックなどの病理を理解し、止血方法について演習を通して理解することができる
5	意識障害	意識障害の原因疾患、その程度について学び、意識障害患者への対処法について理解することができる
6	心肺停止	心肺停止状態の患者に対する蘇生法について理解できる
7	心肺蘇生術の演習	心肺蘇生法の演習を通して、その効果と具体的な手技について理解できる
8	医療機関での救急医療	事故・外傷により医療機関に搬送された患者に対し、どのような処置がなされるのか理解することができる
	以下空欄	以下空欄

教科書	検討中	履修条件	8 回の講義なので，2回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・8回の講義のなかで、適宜小テストを実施することがある ・テスト結果などを総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
スポーツと健康科学	堀　心紀	1	2	後期
授業概要	健康・スポーツ科学分野において、疫学的研究手法を用い、観察研究および介入研究によるエビデンスの構築方法を理解する。また，傷害予防・再発予防の見地からスポーツ現場で行われているテーピング等の手法の実際を理解する。			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	総論　①	オリエンテーションを通じてスポーツ傷害の理学療法の概略が理解できる
2	総論　②	各スポーツにおける運動器障害について，その発生機序などを理解できる
3	スポーツ傷害の応急処置	スポーツ時受傷の応急処置について，アセスメントと処置について理解できる
4	腰部のスポーツ傷害	腰背部のスポーツ傷害に対応する理学療法について理解できる
5	股関節のスポーツ傷害	股関節のスポーツ傷害に対応する理学療法について理解できる
6	腰部・股関節テーピング	腰部・股関節のスポーツ傷害に対するテーピングを実践できる
7	足関節のスポーツ傷害	足関節のスポーツ傷害（捻挫・アキレス腱断裂など）に対する理学療法について理解できる
8	足関節テーピング	足関節のスポーツ傷害に対するテーピングを実践できる
9	膝関節のスポーツ傷害①	頻度の高い膝関節（半月板・靭帯損傷など）のスポーツ傷害についてその概要を理解できる
10	膝関節のスポーツ傷害②	膝関節のスポーツ傷害に対する具体的な理学療法について理解できる
11	膝関節テーピング	膝関節のスポーツ傷害に対するテーピングを実践できる
12	肩関節のスポーツ傷害	腱板断裂など，肩関節のスポーツ傷害に対する理学療法について理解できる
13	肘・手関節のスポーツ傷害	肘・手関節のスポーツ傷害（テニス肘など）の理学療法について理解できる
14	上肢テーピング	肩・肘・手関節スポーツ傷害に対するテーピングを実践できる
15	コンディショニング	スポーツ選手のコンディショニングについて理解できる

教科書	「石山修盟, 著: 正しく効果的に巻ける！テーピングの新しい教科書（日本文芸社）」	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	講義内で適宜提示	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜グループワーク、必要に応じて小テストを実施する ・グループワークおよび小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
言語障害治療学	野村　昌邦	1	2	前期

授業概要	失語症や嚥下障害のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝを通して言語聴覚士の仕事について理解できるように講義を行う
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	言語障害総論	言語聴覚士の役割と言語障害，かかわる脳機能について理解できる
2	言語的コミュニケーション	言語的コミュニケーションの障害について概略が理解できる
3	言語音と産出機構	言語・コミュニケーションとその生物学的基礎について理解できる
4	摂食嚥下機構	摂食嚥下機構・聴覚機構とその生物学的基礎について理解できる
5	失語症	運動性失語と感覚性失語（超皮質性失語の概念も含む）について理解できる
6	失語症の評価	失語症の評価の種類，意義，解釈について理解できる
7	失語症のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ	失語症のリハビリテーションについて理解できる
8	嚥下障害について　③	嚥下障害のリハビリテーションについて理解できる
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書	検討中	履修条件	8回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・8回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
症例検討演習Ⅰ	平塚 健太、相馬 栄大、工藤 達也、羽澤 晃士、外舘 洸平	1	2	後期
授業概要	同職種，他職種との連携を主体にケース課題や事例について考えを表出できるよう演習を行うので活発な発言を期待する			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	オリエンテーション①	症例検討の意義や症例報告に必要な情報を理解できる
2	オリエンテーション②	症例検討の意義や症例報告に必要な情報を取得できる
3	症例報告の実際①	臨床実習で見学した症例についてディスカッションおよび発表できる
4	症例報告の実際②	臨床実習で見学した症例についてディスカッションおよび発表できる
5	症例検討①	運動器疾患の症例についてディスカッションおよび発表できる
6	症例検討②	運動器疾患の症例についてディスカッションおよび発表できる
7	症例検討③	症例を通じて多職種連携に関してディスカッションおよび発表できる
8	症例検討④	症例を通じて多職種連携に関してディスカッションおよび発表できる

教科書	適宜	履修条件	8回の講義なので，3回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	適宜	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・8回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
症例検討演習Ⅱ	平塚 健太、相馬 栄大、工藤 達也、羽澤 晃士、外舘 洸平	1	2	後期
授業概要	同職種，他職種との連携を主体にケース課題や事例について考えを表出できるよう演習を行うので活発な発言を期待する			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	症例検討①	症例を通じて多職種連携に関してディスカッションおよび発表できる
2	症例検討②	症例を通じて多職種連携に関してディスカッションおよび発表できる
3	症例検討③	神経筋疾患の症例についてディスカッションおよび発表できる
4	症例検討④	神経筋疾患の症例についてディスカッションおよび発表できる
5	症例検討⑤	高次脳機能障害の症例についてディスカッションおよび発表できる
6	症例検討⑥	高次脳機能障害の症例についてディスカッションおよび発表できる
7	症例検討⑦	脳卒中の症例についてディスカッションおよび発表できる
8	まとめ	症例検討演習Ⅰ・Ⅱを振り返り、解釈することができる

教科書	適宜	履修条件	8回の講義なので，3回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	適宜	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・8回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学	外舘　洸平	1	1	後期

授業概要	リハビリテーション医学が対象とする運動器障害・神経障害・内部障害の特徴、各疾患で出現しうる症状の概要と検査方法、および各疾患に対するリハビリテーションの流れについて講義を行う
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	総論	リハビリテーション医学の対象、リハビリテーションの流れについて理解できる
2 3 4	運動器障害	運動器障害骨折・変形性関節症・ヘルニア・リウマチ(自己免疫疾患)・切断・スポーツ外傷の概要・症状・検査法・リハビリテーションの流れについて理解できる
5 6	中枢神経障害	中枢神経障害(脳卒中・脳疾患・脊髄疾患)の概要・症状・検査法・リハビリテーションの流れについて理解できる
7	末梢神経障害	末梢神経障害の概要・症状・検査法・リハビリテーションの流れについて理解できる
8 9	神経筋疾患	神経筋疾患(パーキンソン病・多発性硬化症・脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症)の概要・症状・検査法・リハビリテーションの流れについて理解できる
10 11 12	内部障害	内部障害(呼吸器疾患、循環器疾患、内分泌疾患、悪性新生物の概要・症状・検査法・リハビリテーションの流れについて理解できる
13 14	発達障害	発達障害(脳性麻痺、筋ジストロフィー症、ダウン症、二分脊椎)の概要・症状・検査法・リハビリテーションの流れについて理解できる
15	まとめ	各領域で特徴的な症状に対するリハビリテーションについて理解できる

教科書	資料を配布する	履修条件	15回の講義なので4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	必要に応じて提示する	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・小テスト，中間テスト，期末テスト，出席点(振り返りアンケートの記入状況)の結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
リハビリテーション概論	佐藤 速太	1	1	前期
授業概要	リハビリテーションの理念・概要について、PT・OTとリハビリテーションに関わる専門職との連携などについて理解できるよう講義・グループワークを行う。			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	リハビリテーションとは	リハビリテーションの語源・定義，目的について理解する。
2	医療・福祉に関わる専門職・チーム医療	医療及び保健・社会福祉に関わる専門職とチーム医療について調べる。
3	医療・福祉に関わる専門職・チーム医療	医療及び保健・社会福祉に関わる専門職とチーム医療について調べる。
4	障害モデル	障害モデル（ICIDH、ICF）について理解できる。
5	障害モデル	障害モデル（ICIDH、ICF）について理解できる。
6	ICFフレームワーク	症例を通してICFフレームワークを実践できる。
7	ノーマライゼーション	ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザインについて理解できる。
8	総合演習	これまで学んできたことをもとに、リハビリテーションについて説明することができる。

教科書	必要に応じて提示する	履修条件	8回の講義なので3回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	必要に応じて提示する	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・グループワークや課題への取り組み、テストを成績に反映する。		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
社会福祉学	八重樫　優	1	2	前期

授業概要	社会福祉についての成り立ちや歴史，現代の日本の福祉について理解できるよう講義を行う
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	オリエンテーション	社会福祉とは何か，その本質的な理念について理解ができる
2	世界と日本の 社会保障と福祉の歴史	世界と日本の社会保障と福祉の歴史について理解できる
3	日本の医療・ 福祉制度の変遷	日本の医療・福祉制度の変遷について理解できる
4	社会保険・ 社会保障制度の概要	社会保険・社会保障制度の概要について理解ができる
5	高齢者福祉と障害者福祉	高齢者福祉と障害者福祉について理解できる
6	児童家庭福祉と公的扶助	児童家庭福祉と公的扶助について理解できる
7	社会福祉援助技術の方法	社会福祉援助技術の方法について理解できる
8	医療・介護・福祉の連携	医療・介護・福祉の連携について理解できる

教科書	・新 社会福祉とは何か	履修条件	8回の講義なので，2回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書		留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・8回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
地域包括ケアシステム論	工藤　達也	1	2	後期

授業概要	医療・福祉，地域リハビリテーションを担う様々な専門職の役割を理解できるような授業を展開し，多職種連携による包括的な地域医療福祉活動の必要性を論じる
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	地域包括ケアシステムⅠ	地域包括ケアシステムの概念や背景，現代における地域包括ケアシステムの重要性について理解できる
2	地域包括ケアシステムⅡ	地域包括支援センターの役割や地域包括ケア会議の概要を理解できる
3	ニーズの把握と理解	対象者(生活者)のニーズの捉え方やアプローチ方法を理解できる
4	地域包括ケアシステムにおけるセラピストの役割	地域包括における理学療法士，作業療法士の役割を理解できる
5	多職種連携・チームアプローチ	多職種連携・チームアプローチの理念と意義について理解できる
6	地域包括ケアシステムにおける社会福祉士の役割	地域包括ケアシステムにおける社会福祉士の役割について理解できる
7	地域包括ケアシステムにおける看護師の役割	地域包括ケアシステムにおける看護師の役割について理解できる
8	地域包括ケアシステムにおけるケアマネジャーの役割	地域包括ケアシステムにおけるケアマネジャーの役割について理解できる
9	多職種連携演習Ⅰ	多職種連携演習(グループワーク)を通じて，多職種連携の重要性や各職種の役割を理解できる
10	多職種連携演習Ⅱ	
11	多職種連携演習Ⅲ	
12	多職種連携演習Ⅳ	
13	多職種連携演習Ⅴ	
14	多職種連携演習Ⅵ	
15	まとめ	多職種連携における各職種の役割および包括的な地域医療福祉活動の必要性を理解できる

教科書	検討中	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	地域包括ケアにおけるPT・OTの役割 個別地域ケア会議・介護予防事業から学ぶ	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	15回の講義のなかで，適宜課題を実施し，課題提出や内容を総合して成績に反映させる		
備考	グループワークも適宜行う		

□　選択　☑　必修		☑　講義　□　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
理学療法概論	工藤達也	2	1	前期
授業概要	理学療法の定義と歴史を理解し医療ならびに社会全体における理学療法の位置づけ，基本的な理学療法の理論，知識と技術について把握する．また，理学療法を施行する上で関わる障害や疾患について理解を深める．			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	オリエンテーション	理学療法概論で学習する内容や基礎科目との関連性を理解できる
2	理学療法の定義と歴史	理学療法の定義と歴史について理解できる．
3 4	理学療法に関わる法律	理学療法士および作業療法士法について理解できる．
5 6	理学療法の流れ	理学療法が行われる際の一連の流れ，臨床思考過程について理解できる．
7 8	疾患と機能障害①	疾患と機能障害の関連性やそれぞれの意味について理解できる．また，疾患についてのグループワーク学習を通じて疾患と機能障害について理解を深める．
9 10	疾患と機能障害②	疾患と機能障害の関連性やそれぞれの意味について理解できる．また，疾患についてのグループワーク学習を通じて疾患と機能障害について理解を深める．
11 12	住環境と理学療法	家屋改修や福祉用具など在宅における理学療法士の関わりを理解できる． 歩行補助具体験を通じて，各歩行補助具の特徴やメリット・デメリットを理解できる． また，屋外での車椅子乗車・操作体験を通じて，屋外での移動に対する理解を深める．
13 14	病院の機能と役割①	理学療法士の主な活動の場である病院について，病期の違いによる役割や実施されているリハビリテーション，病棟機能などを理解できる．又、函館市の主要な病院についての調べ学習を通じて理解を深める．
15 16	病院の機能と役割②	理学療法士の主な活動の場である病院について，病期の違いによる役割や実施されているリハビリテーション，病棟機能などを理解できる．又、函館市の主要な病院についての調べ学習を通じて理解を深める．
17 18	理学療法に必要な知識 重心と支持基底面	重心と支持基底面の関係性や，基本動作における重心および支持基底面の変化について理解できる．また，基本動作体験を通じて理解を深める．

19 20	理学療法に必要な知識 関節可動域とその評価	関節の構造や機能，関節可動域の定義や評価・測定方法について理解できる． 関節可動域制限の主な原因について理解できる． 疑似的な関節可動域制限の状態を体験することでADLに及ぼす影響について理解できる．
21 22	理学療法に必要な知識 関節可動域制限と運動療法	関節可動域訓練の手技方法や適応について理解できる．また，関節可動域訓練の実技を通じて理解を深める．
23 24	理学療法に必要な知識 筋力とその評価	筋肉の機能や構造，筋力の定義や評価・測定方法について理解できる． 筋力低下の主な原因について理解できる． 各収縮様式の違いやOKCとCKCの違いについて実技を通じて理解を深める．
25 26	理学療法に必要な知識 筋力低下と運動療法	筋力増強訓練の手技方法や作用および効果について理解できる．また，筋力増強訓練の実技を通じて理解を深める．
27 28	理学療法に必要な知識 リスク管理	リスク管理の意義や必要性，理学療法時の実践方法について理解できる． バイタルサインの定義や評価・測定方法について理解できる．
29 30	まとめ	理学療法および理学療法士に関する基本的知識，理学療法の対象や主な治療手段について理解できる．

教科書	適宜、資料を配布する	履修条件	30回の講義なので，7回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・30回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐ 選択 ☑ 必修		☐ 講義 ☑ 演習 ☐ 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
基礎理学療法学Ⅰ	工藤達也	2	1	後期
授業概要	理学療法を行う上で基礎となる骨や筋の触診技術を習得し、解剖学・運動学分野の総合的理解を深める			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1 2	オリエンテーション 肩甲帯の触診	オリエンテーション, 肩甲帯のランドマークを理解し，触診方法を習得できる
3 4	上腕・前腕の触診	上腕・前腕のランドマークを理解し，触診方法を習得できる
5 6	骨盤の触診	骨盤のランドマークを理解し，触診方法を習得できる
7 8	大腿・下腿の触診	大腿・下腿のランドマークを理解し，触診方法を習得できる
9 10	脊柱の触診	脊柱の骨の位置関係を理解し，触診方法を習得できる
11 12	総合演習 ①	各ランドマークの触診の総合演習を実施し，臨床で必要な技術を習得できる
13 14	肩甲帯周囲筋触診	肩甲帯周囲の主要な筋の起始・停止を理解し，触診方法を習得できる
15 16	上腕部の筋の触診	肩甲帯周囲・上腕部の主要な筋の起始・停止を理解し，触診方法を習得できる
17	前腕部の筋の触診	上腕・前腕部の主要な筋の起始・停止を理解し，触診方法を習得できる

18	前腕部の筋の触診	上腕・前腕部の主要な筋の起始・停止を理解し，触診方法を習得できる
19 20	総合演習 ②	肩甲帯・上肢の主要な筋の触診の総合演習を実施し，臨床で必要な技術を習得できる
21 22	骨盤周囲筋の触診	骨盤周囲の主要な筋の起始・停止を理解し，触診方法を習得できる
23 24	大腿部の筋の触診 ①	大腿前面の主要な筋の起始・停止を理解し，触診方法を習得できる
25 26	大腿部の筋の触診 ②	大腿後面および側面の主要な筋の起始・停止を理解し，触診方法を習得できる
27 28	下腿部の筋の触診	下腿部の主要な筋の起始・停止を理解し，触診方法を習得できる
29 30	総合演習 ③	骨盤・下肢の主要な筋の触診の総合演習を実施し，臨床で必要な技術を習得できる

教科書	資料を適宜配布する	履修条件	30回の講義なので，７回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	グレイ解剖学 原著第4版 基礎運動学 第6版	留意事項等	講義時間内で技術を習得できるよう集中して臨むこと
成績評価	・30回の講義のなかで，適宜実技テストを実施する ・実技テスト，課題レポートの結果を総合して成績に反映させる		
備考	触診を行うため，ある程度の肌の露出が可能なようにできればTシャツ・短パンで講義に臨むこと		

☐ 選択 ☑ 必修		☐ 講義 ☑ 演習 ☐ 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
基礎理学療法学Ⅱ	外舘 洸平	2	2	前期
授業概要	理学療法評価の基礎となる姿勢・動作観察の方法を学び、文章として報告でききるようにグループワークを中心に演習していく。			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	オリエンテーション	姿勢・動作観察の目的を理解でき、文章化に必要な基礎的な知識を習得できる
2		
3	姿勢観察(立位)①	立位姿勢の特徴や関連するバイオメカニクスを理解できる
4	姿勢観察(立位)②	立位姿勢の観察、および表記方法を理解できる
5	動作観察(起立動作)①	起立動作のバイオメカニクスを理解できる
6	動作観察(起立動作)②	起立動作の観察、および表記方法を理解できる
7	姿勢分析(立位)	立位姿勢の観察・分析(誘導)、および表記方法を理解できる
8	動作分析(起立動作)	起立動作の観察・分析(誘導)、および表記方法を理解できる
9	動作観察(着座動作)①	着座動作のバイオメカニクスを理解できる
10	動作観察(着座動作)②	着座動作の観察、および表記方法を理解できる
11	姿勢観察(臥位)①	臥位姿勢の特徴や関連するバイオメカニクスを理解できる
12	姿勢観察(臥位)②	臥位姿勢の観察、および表記方法を理解できる
13	動作観察(寝返り動作)①	寝返り動作のバイオメカニクスを理解できる
14	動作観察(寝返り動作)②	寝返り動作の観察、および表記方法を理解できる
15	姿勢分析(臥位)	臥位姿勢の観察・分析(誘導)、および表記方法を理解できる
16	動作分析(寝返り動作)	寝返り動作の観察・分析(誘導)、および表記方法を理解できる
17	姿勢観察(座位)①	座位姿勢の特徴や関連するバイオメカニクスを理解できる
18	姿勢観察(座位)②	座位姿勢の観察、および表記方法を理解できる

19	動作観察(起居動作)①	起居動作のバイオメカニクスを理解できる
20	動作観察(起居動作)②	起居動作の観察、および表記方法を理解できる
21	姿勢分析(座位)	座位姿勢の観察・分析(誘導)、および表記方法を理解できる
22	動作分析(起居動作)	寝返り動作の観察・分析(誘導)、および表記方法を理解できる
23	動作観察(段差昇降)①	段差昇降動作のバイオメカニクスを理解できる
24	動作観察(段差昇降)②	段差昇降動作の観察、および表記方法を理解できる
25	動作観察(床上動作)①	床上動作のバイオメカニクスを理解できる
26	動作観察(床上動作)②	床上動作の観察、および表記方法を理解できる
27	動作分析①	動作指導・トレーニングを想定して、患者役の近くから起立・着座動作(スクワット)、ランジ動作などを観察・分析を行う。動作の修正を徒手的に行い、治療的な視点を持つことができる
28	動作分析②	
29	動作分析③	
30	動作分析④	

教科書	基本動作の評価と治療アプローチ （メジカルビュー社）	履修条件	30回の講義なので，12回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	適宜提示	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	グループワークでの課題、個人でのレポート課題、期末テストの成果をもとに、総合的に判断する		
備考			

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
理学療法評価学演習Ⅰ	相馬　栄大	2	1	後期
授業概要	評価は，効果的な理学療法を実施するうえできわめて重要な理学療法プロセスに位置づけられる　本科目では，評価の意義や目的，その一連の進め方について学習する　また，理学療法における基本的検査・測定技術である関節可動域測定法，筋力測定法について講義および演習を通して習得する			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画		
1	オリエンテーションおよび評価学概論	本授業の概要，学習目標・内容，スケジュール，学習方法の説明，評価とは何かを理解できる
2	一般的評価事項	問診・観察・面接（すべての始まり）を通して，「見立て」にはどのような情報が必要か理解できる
3	関節可動域測定 総合演習①	関節可動域（ROM）とはなにか，また，臨床におけるROMの情報 （具体的な数値，抵抗感，end feel など）の重要性についても理解できる
4	肩関節の可動域測定①	肩関節のROM測定を演習し，手技を習得できる
5	肩関節の可動域測定②	肩関節のROM測定を演習し，手技を習得できる
6	肘関節の可動域測定	肘関節のROM測定を演習し，手技を習得できる
7	手関節の可動域測定	手関節のROM測定を演習し，手技を習得できる
8	関節可動域測定 総合演習　②	関節可動域測定の復習を通じて，臨床に必要な技能を習得することができる
9	股関節の可動域測定①	股関節のROM測定を演習し，手技を習得できる
10	股関節の可動域測定②	股関節のROM測定を演習し，手技を習得できる
11	膝関節の可動域測定	膝関節のROM測定を演習し，手技を習得できる
12	足関節の可動域測定	足関節のROM測定を演習し，手技を習得できる
13	体幹・頚部の可動域測定	体幹・頚部のROM測定を演習し，手技を習得できる
14	関節可動域測定 総合演習　④	関節可動域測定の復習を通じて，臨床に必要な技能を習得することができる
15	関節可動域測定 総合演習　⑤	関節可動域測定の復習を通じて，臨床に必要な技能を習得することができる
16	関節可動域測定 総合演習　⑥	関節可動域測定の復習を通じて，臨床に必要な技能を習得することができる
17	筋力検査総合演習①	筋力とは何かが理解できる。徒手筋力検査（MMT）の概略，臨床的意義について概略を理解できる。
18	肩関節の筋力検査	肩関節のMMT測定を演習し，手技を習得できる

19	肩甲骨の筋力検査①	肩甲骨のMMT測定を演習し，手技を習得できる
20	肩甲骨の筋力検査②	肩甲骨のMMT測定を演習し，手技を習得できる
21	肘関節の筋力検査	肘関節のMMT測定を演習し，手技を習得できる
22	手関節の筋力検査	手関節のMMT測定を演習し，手技を習得できる
23	股関節の筋力検査①	股関節のMMT測定を演習し，手技を習得できる
24	股関節の筋力検査②	股関節のMMT測定を演習し，手技を習得できる
25	膝関節の筋力検査	膝関節のMMT測定を演習し，手技を習得できる
26	足関節・足部の筋力検査	足関節のMMT測定を演習し，手技を習得できる
27	体幹の筋力検査	体幹のMMT測定を演習し，手技を習得できる
28	頚部の筋力検査	頚部のMMT測定を演習し，手技を習得できる
29	筋力検査総合演習②	筋力検査の復習を通じて，臨床に必要な技能を習得することができる
30	筋力検査総合演習③	筋力検査の復習を通じて，臨床に必要な技能を習得することができる

教科書	・新徒手筋力検査法（第9版） ・基礎運動学（第6版） ・理学療法評価学（標準理学療法学　専門分野）	履修条件	30回の講義なので，7回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	・運動療法のための解剖学的触診技術上肢 ・運動療法のための解剖学的触診技術体幹下肢	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・30回の講義のなかで、適宜小テスト（筆記・実技）を実施する ・小テストの結果と期末テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
理学療法評価学演習Ⅱ	工藤　達也	2	2	前期

授業概要	評価の意義や目的，その一連の進め方について学習する．また，理学療法における基本的検査・測定技術であるバイタルサイン測定，形態測定，感覚・知覚検査，反射・病的反射，片麻痺機能検査，協調性検査， 姿勢反射・バランス・平衡機能検査，筋緊張検査などを講義および演習を通して習得する．
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	理学療法評価の意義・目的	理学療法評価の意義・目的やその流れと，その重要性について理解できる
2	医療面接	医療面接の目的や流れ，コミュニケーション方法，質問方法などについて理解し，演習を通じて手技を習得できる
3 4	ROM-T，MMTの総演習	ROM-T，MMTの総演習を通じて，臨床に必要な態度・技能・知識を習得できる
5 6	バイタルサイン測定	生命徴候であるバイタルサイン(血圧・脈拍・呼吸・体温)の測定の目的や方法，結果判定やその解釈などについて理解し，演習を通じて手技を習得できる
7 8	形態測定	四肢長および周径といった形態測定の目的や方法，結果判定やその解釈などについて理解し，演習を通じて手技を習得できる
9 10	表在感覚検査	体性感覚のひとつである表在感覚検査の目的や方法，結果判定やその解釈などについて理解し，演習を通じて手技を習得できる
11 12	深部感覚検査	体性感覚のひとつである深部感覚検査の目的や方法，結果判定やその解釈などについて理解し，演習を通じて手技を習得できる
13 14	総合演習①	バイタルサイン測定，形態測定，表在感覚検査，深部感覚検査の総演習を通じて，臨床に必要な態度・技能・知識を習得できる
15 16	反射検査	深部腱反射や表在反射，病的反射といった反射の検査の目的や方法，結果判定やその解釈などについて理解し，演習を通じて手技を習得できる
17 18	片麻痺機能検査①	片麻痺の運動機能回復の過程を評価するBrunnstrom Recovery Stage(BRS)や上田式 12段階片麻痺機能検査の目的や方法，結果判定やその解釈などについて理解し， 演習を通じて手技を習得できる

19 20	片麻痺機能検査②	片麻痺の運動機能回復の過程を評価するBrunnstrom Recovery Stage(BRS)や上田式 12段階片麻痺機能検査の目的や方法，結果判定やその解釈などについて理解し， 演習を通じて手技を習得できる
21 22	筋緊張検査	錐体路障害，錐体外路障害により出現する筋緊張異常の評価である筋緊張検査の目的や方法，結果判定やその解釈などについて理解し，演習を通じて手技を習得 できる
23 24	協調性検査	運動失調を評価である協調性検査の目的や方法，結果判定やその解釈などについて理解し，演習を通じて手技を習得できる
25 26	姿勢反射・ バランス機能検査	外乱による姿勢反射や平衡機能の反応，パフォーマンスとしてのバランス検査の目的や方法，結果判定やその解釈などについて理解し，演習を通じて手技を習得 できる
27 28	脳神経検査	脳神経の解剖や機能について把握し，各検査の意義や方法について理解することができる
29 30	総合演習②	反射検査，片麻痺機能検査，協調性検査，バランス機能検査の総演習を通じて，臨床に必要な態度・技能・知識を習得できる

教科書	理学療法評価学 (標準理学療法学 専門分野)	履修条件	30回の講義なので，7回以上欠席 すると定期試験を受験できない
参考書	神経診察クローズアップ 第3版 看護がみえるvol.3 フィジカルアセスメント	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	30回の講義のなかで、適宜小テスト(筆記・実技)を実施する. 授業参加への積極性と小テストの結果，定期テストの結果を総合して成績に反映させる.		
備考	毎時間，実技を行うので，動きやすい服装で授業に臨むこと		

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
理学療法評価学演習Ⅲ	外舘　洸平	2	2	後期
授業概要	これまで修得した知識を整理し，技能の向上および患者とのコミュニケーション，知識の具現化を図る　なお，演習では学内において臨床現場を想定した医療面接や検査測定に関する客観的臨床能力試験（以下，OSCE　）を実施する			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	オリエンテーション①	理学療法における評価の流れと、その重要性について理解することができる
2	オリエンテーション②	
3	評価の解釈①	関節可動域測定の実施方法を習得し、その判定や解釈について理解することができる
4	評価の解釈②	
5	評価の解釈③	
6	評価の解釈④	
7	筋力検査①	頭頚部のMMTの演習を通して、その手技を習得できる
8	筋力検査②	
9	筋力検査③	体幹部のMMTの演習を通して、その手技を習得できる
10	筋力検査④	
11	評価の解釈⑤	筋力検査(徒手筋力検査法)の実施方法を習得し、その判定や解釈について理解することができる
12	評価の解釈⑥	
13	評価の解釈⑦	
14	評価の解釈⑧	
15	評価の解釈⑨	バイタルサインの測定、フィジカルアセスメントの実施方法を習得し、その判定や解釈について理解することができる
16	評価の解釈⑩	形態測定、骨のランドマークの触診の実施方法を習得し、その判定や解釈について理解することができる
17	評価の解釈⑪	筋の触診方法を習得し、その判定や解釈について理解することができる
18	評価の解釈⑫	

19	評価の解釈⑬	筋緊張検査、腱反射、感覚検査の実施方法を習得し、その判定や解釈について理解することができる
20	評価の解釈⑭	バランス評価、片麻痺機能検査の実施方法を習得し、その判定や解釈について理解することができる
21	姿勢・動作分析①	起居動作のバイオメカニクスと理解することができ、実際の患者の姿勢・動作観察および分析と、その内容について記載することができる
22	姿勢・動作分析②	
23	姿勢・動作分析③	起立・着座動作のバイオメカニクスと理解することができ、実際の患者の姿勢・動作観察および分析と、その内容について記載することができる
24	姿勢・動作分析④	
25	歩行評価①	歩行動作のバイオメカニクスを理解することができ、実際の患者の姿勢・動作観察および分析と、その内容について記載することができる
26	歩行評価②	
27	歩行評価③	代表的な疾患の患者の異常歩行の観察・分析を実践し、その内容について記載することができる
28	歩行評価④	
29	総合演習①	整形外科疾患、中枢神経疾患、内部疾患についての代表的な疾患に対して、実施すべき評価項目の列挙、実施計画の立案を行い、実際に実施することができる
30	総合演習②	

教科書	理学療法評価学第6版補訂版 （金原出版）	履修条件	30回の講義なので，７回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	神経診察クローズアップ 第3版 講義内で適宜参考資料を配布する	留意事項等	実技練習は適宜行うこと
成績評価	・30回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
運動器障害理学療法治療学	鈴木 優太	1	2	後期
授業概要	ADLに影響する運動器障害，その背景にある各種の疾患について医学的な視点で理解を深め，具体的なリハビリテーションの技術について論じる。			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	総論	一般的な運動器障害理学療法の評価・治療について理解する。
2	肩・肘関節の運動器疾患①	肩・肘関節の運動器疾患の病態とその評価・治療を理解・実践する。
3	肩・肘関節の運動器疾患②	肩・肘関節の運動器疾患の病態とその評価・治療を理解・実践する。
4	肩・肘関節の運動器疾患③	肩・肘関節の運動器疾患の病態とその評価・治療を理解・実践する。
5	肩・肘関節の運動器疾患④	肩・肘関節の運動器疾患の病態とその評価・治療を理解・実践する。
6	肩・肘関節の運動器疾患⑤	肩・肘関節の運動器疾患の病態とその評価・治療を理解・実践する。
7	手関節の運動器疾患①	手関節の運動器疾患の病態とその評価・治療を理解・実践する。
8	手関節の運動器疾患①	手関節の運動器疾患の病態とその評価・治療を理解・実践する。
9	頸椎の運動器疾患①	頸椎の運動器疾患の病態とその評価・治療を理解・実践する。
10	頸椎の運動器疾患②	頸椎の運動器疾患の病態とその評価・治療を理解・実践する。
11	頸椎の運動器疾患③	頸椎の運動器疾患の病態とその評価・治療を理解・実践する。
12	胸腰椎の運動器疾患①	胸腰椎の運動器疾患の病態とその評価・治療を理解・実践する。
13	胸腰椎の運動器疾患②	胸腰椎の運動器疾患の病態とその評価・治療を理解・実践する。
14	胸腰椎の運動器疾患③	胸腰椎の運動器疾患の病態とその評価・治療を理解・実践する。
15	総合演習	上肢の運動器疾患について病態・評価・治療について総合演習をする。

教科書	運動器疾患の治療とリハビリテーション ー手術・保存療法とリハビリテーションプログラムー	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	病気がみえる vol11 運動器・整形外科	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考	2年後期『運動器障害理学療法治療学演習』では下肢の運動器疾患について主に取り扱い、本講義と合わせて運動器疾患に対する病態・評価・治療を理解・実践できるようになることを目標に行う。		

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
運動器障害理学療法 治療学演習	吉田　俊教	1	2	後期
授業概要	ADLに影響する運動器障害，その背景にある各種の疾患について医学的な視点で理解を深め，具体的なリハビリテーションの技術について論じる			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	総論	一般的な運動器障害理学療法の評価・治療について理解する。
2	股関節の 運動器障害①	股関節疾患や外傷の病態とその治療を理解・実践する。
3	股関節の 運動器障害②	股関節疾患や外傷の病態とその治療を理解・実践する。
4	股関節の 運動器障害③	股関節疾患や外傷の病態とその治療を理解・実践する。
5	膝関節の 運動器障害①	膝関節疾患や外傷の病態とその治療を理解・実践する。
6	膝関節の 運動器障害②	膝関節疾患や外傷の病態とその治療を理解・実践する。
7	膝関節の 運動器障害③	膝関節疾患や外傷の病態とその治療を理解・実践する。
8	足部・足関節の 運動器障害①	足部・足関節疾患や外傷の病態とその治療を理解・実践する。
9	足部・足関節の 運動器障害②	足部・足関節疾患や外傷の病態とその治療を理解・実践する。
10	足部・足関節の 運動器障害③	足部・足関節疾患や外傷の病態とその治療を理解・実践する。
11	スポーツ傷害①	各種スポーツ傷害の病態とその治療を理解・実践する。
12	スポーツ傷害②	各種スポーツ傷害の病態とその治療を理解・実践する。
13	スポーツ傷害③	各種スポーツ傷害の病態とその治療を理解・実践する。
14	総合演習①	運動器障害の評価・治療プログラムの立案を実施する。
15	総合演習②	運動器障害の評価・治療プログラムの立案を実施する。

教科書	運動器疾患の治療とリハビリテーション ー手術・保存療法とリハビリテーションプログラムー	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	病気がみえる vol11 運動器・整形外科	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストと定期テストなどの結果を総合して成績に反映させる		
備考	・本講義では配布資料がない場合もあるので、毎講義でノートをしっかりとること。 ・2年後期『運動器障害理学療法治療学』では上肢の運動器疾患について主に取り扱い、本講義と合わせて運動器疾患に対する病態・評価・治療を理解・実践できるようになることを目標に行う。		

☐ 選択 ☑ 必修		☐ 講義 ☑ 演習 ☐ 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
理学療法研究法	外舘　洸平・古館　裕大	1	2	後期

授業概要	理学療法における研究方法について意義を知り，その方法を理解できるよう講義演習を行う
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	EBMと文献検索	Evidence Based Medicine(Physical Therapy)の概要を理解できる．また，Google Scholarを用いた論文検索の方法を理解できる．
2	医療統計学復習	統計的仮説検定と多変量解析を復習し理解できる．
3	研究法演習①…観察研究	第4回…横断研究のデザインを理解でき，論文を解釈できる 第5回…ケースコントロール研究のデザインを理解でき，論文を解釈できる 第6回…前向きコホート研究のデザインを理解でき，論文を解釈できる 第7回…後ろ向きコホート研究のデザインを理解でき，論文を解釈できる
4		
5		
6		
7	研究法演習②…介入研究	第8, 9回…介入研究のデザインを理解でき，論文を解釈できる
8		
9	研究法演習③…総合演習	第10, 11回…自分で論文を検索し，研究デザインと統計解析の内容を理解できる
10		
11	医療DX教育演習… MLモデリング演習	Python言語を自分のPCの導入でき，基本的な文法を理解できる
12		ロジスティック回帰モデルを用いたクラスの予測の考え方を理解できる
13		重回帰モデルを用いた値の予測の考え方を理解できる
14		決定木を用いたクラスの予測・値の予測の考え方を理解できる
15		機械学習を取り入れたデータ解析の仕方を理解できる．特に，交差検定法の考え方を理解できる

教科書	資料を配布する	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	医療系研究論文の読み方・まとめ方 - 論文のPECOから正しい統計的判断まで,東京図書株式会社,2011	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	中間試験レポート，期末試験レポート，日々の課題から総合的に判断する		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
神経障害理学療法治療学	平塚　健太	1	2	後期
授業概要	リハビリテーションの中核的対象となる神経障害について深く学び，治療技術を臨床に反映できるよう実践的な内容を学ぶ			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	脳卒中と随意運動障害	随意運動のメカニズムと障害が生じる脳画像について理解できる
2	随意運動障害に対する理学療法1	脳卒中患者に起因する随意運動の障害に対する理学療法を理解できる
3	随意運動障害に対する理学療法2	脳卒中患者に起因する随意運動の障害に対する理学療法を理解できる
4	随意運動障害に対する理学療法3	脳卒中患者に起因する随意運動の障害に対する理学療法を理解できる
5	感覚障害に対する理学療法	脳卒中患者に起因する感覚障害の障害と理学療法を理解できる
6	脳卒中の評価１	脳卒中患者に特有の評価を理解できる
7	脳卒中の評価２	脳卒中患者に特有の評価を理解し、実践できる
8	脳卒中の評価３	脳卒中患者に特有の評価を理解し、実践できる
9	脳卒中の評価４	脳卒中患者に特有の評価を理解し、実践できる
10	脳卒中の歩行障害１	脳卒中患者に特有の歩行を理解できる
11	脳卒中の歩行障害２	脳卒中の歩行障害に対する理学療法を理解できる
12	姿勢障害に対する理学療法	姿勢定位障害に対する理学療法を理解できる
13	パーキンソン病の理学療法	パーキンソン病に対する評価と治療を理解できる
14	神経筋疾患の理学療法	神経筋疾患に対する評価と治療を理解できる
15	脊髄損傷	脊髄損傷に対する評価と治療を理解できる

教科書	神経障害理学療法学I（15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト） 神経障害理学療法学II（15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト）	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	適宜	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
神経障害理学療法治療学演習	河本　貴行	1	2	後期

授業概要	神経障害理学療法治療学で学習した知識を基盤として，具体的なリハビリテーションについて論じ，臨床的な評価，治療の技能を身に着けることができるよう演習する
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	情報収集/脳画像の見方	情報収集や脳画像の見方について理解し、考察できる
2	脳卒中患者に対する コミュニケーションの実際	脳卒中患者に対するコミュニケーションの方法を実践できる
3	脳卒中のROM評価	脳卒中片麻痺患者特有のROM測定について理解し、実践できる
4	感覚検査/筋緊張検査①	脳卒中片麻痺患者特有の感覚検査や筋緊張検査について理解し、実践できる
5	筋緊張検査②/麻痺の評価	脳卒中片麻痺患者特有の筋緊張検査や麻痺の評価について理解し、実践できる
6	基本動作	神経障害患者に対する基本動作について理解し、実践できる
7	バランス評価	神経障害患者に対するバランス評価について理解し、実践できる
8	歩行	神経障害患者に対する歩行について理解し、アプローチができるようになる
9	下肢装具	神経障害患者に対する下肢装具について理解し、アプローチができるようになる
10	ADL評価	神経障害患者に対するADLについて理解し、アプローチができるようになる
11	上肢に対するROM練習	上肢ROM練習について理解し、実践できる
12	下肢に対するROM練習	下肢ROM練習について理解し、実践できる
13	動作介助	神経障害患者に対する動作介助について理解し、実践できる
14	まとめ①	神経障害患者に対するリスク管理，全身的な生体機能の管理ができるようになる
15	まとめ②	神経障害患者に対するアセスメントができるようになる

教科書	適宜	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	適宜	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐ 選択 ☑ 必修		☑ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
内部障害理学療法治療学	工藤 達也	1	2	後期

授業概要	高齢者や在宅クライエントによくみられる内部障害について深く学び，治療技術を臨床に反映できるよう実践的な内容を学ぶ
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	循環器系の機能と構造	心臓および血管の構造と特徴について理解できる
2	虚血性心疾患	虚血性心疾患(心筋梗塞，狭心症)の病態および理学療法について理解できる
3	喀痰と吸引	喀痰・吸引について意義と方法を理解し，手技を習得できる
4	心不全	心不全の病態および理学療法について理解できる
5	不整脈 ①	不整脈の発生機序および分類，心電図の見方について理解できる
6	不整脈 ②	各不整脈における心電図の特徴的所見について理解できる
7	呼吸器系の機能と構造	気管および肺の構造と特徴および呼吸不全の病態について理解できる
8	慢性閉塞性肺疾患	慢性閉塞性肺疾患(COPD)の病態および理学療法について理解できる
9	周術期の理学療法	周術期(術前・術後)における評価および理学療法について理解できる
10	人工呼吸管理と理学療法	人工呼吸器の構造および基本的なモード，人工呼吸管理における理学療法について理解できる
11	糖尿病 ①	糖尿病の病態および合併症，治療内容について理解できる
12	糖尿病 ②	糖尿病の理学療法および糖尿病足病変について理解できる
13	腎疾患	腎機能障害の分類および症状，理学療法について理解できる
14	がん ①	悪性腫瘍の種類，病態や治療法について理解できる
15	がん ②	緩和ケアを含めたがんへの介入法について理解できる

教科書	シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改定第3版，南江堂	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	なるほどなっとく！内科学 改定2版，南山堂	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
内部障害理学療法治療学演習	相馬 栄大	1	2	後期

授業概要	内部障害理学療法治療学で学習した知識を基盤として，具体的なリハビリテーションについて論じ，臨床的な評価，治療の技能，喀痰吸引の技術を身に着けることができるよう演習する
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	糖尿病　①	糖尿病に対する機能的作業療法の介入，生活指導の趣味レーションができる
2	糖尿病　②	糖尿病患者の在宅リハのマネージメントができる
3	腎疾患	慢透析患者への具体的なアプローチを理解できる
4	悪性腫瘍	悪性腫瘍の種類や進行度，生命予後を踏まえたアプローチ，緩和ケアを含めた具体的な介入法について理解できる
5	呼吸器疾患　①	各種の計測機器（聴診器やパルスオキシメーターなど）を使った評価ができるようになる
6	呼吸器疾患　②	呼吸リハビリテーションについて実践を通じて経験し理解を深める
7	循環器疾患　①	運動負荷試験を実践し呼吸器と循環器の機能的関連性について理解できる
8	循環器疾患　②	循環器疾患と全身状態との関係を医学的に説明できる
9	循環器疾患　③	心筋梗塞の回復過程に即したADL指導ができるようになる
10	高齢者の運動機能障害	廃用症候群をアセスメントし治療計画を立案できるようになる
11	訪問看護　①	在宅クライエントに対する看護アセスメントの概略が理解できる
12	訪問看護　②	在宅クライエントに対する具体的な看護業務について理解できる
13	高齢者の運動機能障害　①	長期臥床や廃用の影響を評価し治療プログラムを立案できる
14	高齢者の運動機能障害　②	フレイルやサルコペニアについてそれらの概念を学習する
15	まとめ	内部障害への具体的なリハビリテーションを計画し実施することができる

教科書	検討中	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
物理療法学演習	外舘　洸平	1	1	後期

授業概要	種々の物理療法の原理，生体に与える生理学的作用，実施上の適応と禁忌，物理療法プログラムの実際を理解する
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	物理療法総論・リスク管理	物理療法の概要，物理療法におけるリスク管理について理解することが出来る
2	温熱療法　①	温熱療法の定義・分類，温熱療法の基礎と生理学的作用，ホットパック・パラフィンの適応・禁忌・実施の流れについて理解することが出来る
3	温熱療法　②	超短波療法・極超短波療法の適応・禁忌・実施の流れについて理解することが出来る
4	温熱療法　③	超音波療法の適応・禁忌・実施の流れについて理解することが出来る
5	寒冷療法	寒冷療法の定義・分類，寒冷療法の基礎と生理学的作用，寒冷療法の適応・禁忌・実施の流れについて理解することが出来る
6	水治療法	水治療法の定義・分類，水治療法の基礎と生理学的作用，水治療法の適応・禁忌・実施の流れについて理解することが出来る
7	演習①	温熱療法，寒冷療法，水治療法の実際（機器の使い方）
8	光線療法　①	光線療法の定義・分類，光線療法の基礎と生理学的作用，レーザー療法の適応・禁忌・実施の流れについて理解することが出来る
9	光線療法　②	赤外線療法，紫外線療法の適応・禁忌・実施の流れについて理解することが出来る
10	電気刺激療法　①	電気刺激療法の定義・分類・基礎と生理学的作用について理解することが出来る
11	電気刺激療法　②	経皮的電気神経刺激，干渉波刺激の適応・禁忌・実施の流れについて理解することが出来る
12	電気刺激療法　③	神経筋電気刺激，機能的電気刺激の適応・禁忌・実施の流れについて理解することが出来る
13	牽引療法	牽引療法の定義・分類，牽引療法の基礎と生理学的作用，牽引療法の適応・禁忌・実施の流れについて理解することが出来る
14	マッサージ療法	マッサージ療法の定義・分類，マッサージ療法の基礎と生理学的作用，マッサージ療法の適応・禁忌・実施の流れについて理解することが出来る
15	演習②	光線療法，電気刺激療法，牽引療法，マッサージ療法の実際（機器の使い方，実技）

教科書	PT・OTビジュアルテキスト　エビデンスから身につける物理療法 第2版，羊土社	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	最新理学療法学講座 物理療法学,医歯薬出版株式会社 Crosslink理学療法学テキスト 物理療法学,メジカルビュー社	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・課題レポート，中間テスト，定期テスト，出席点(振り返りアンケートの記入状況)の結果を総合して成績に反映させる		
備考			

□　選択　☑　必修		☑　講義　□　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
発達障害理学療法治療学	服部 範行　野澤 綾子　田縁 友博	1	2	後期

授業概要	発達障害学で学ぶ内容を理学療法の視点で深く掘り下げて学び，発達障害児（者）の治療について考えることができるよう講義を行う
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	発達障害とは	発達障害の概念および様々な新生児疾患の概要について理解し，それらと理学療法との関係が理解できる また，NICUにおける治療についても概略を理解できる
2	新生児疾患の理学療法	周産期の障害を深く理解し，NICUにおける理学療法士の活動について理解できる
3	脳性麻痺の理学療法	脳性麻痺のタイプ・病理・症状などについて理解を深め，理学療法の適応が理解できる
4	脳性麻痺の理学療法	脳性麻痺児への（諸家の治療理論による）アプローチの概要を理解し，基本的な運動療法的介入法を実践できる
5	重症心身障害児の理学療法	重症心身障害児（者）の理学療法の必要性について説明できる
6	重症心身障害児の理学療法	重複障害を伴う重症心身障害児に対する理学療法について，その目的・方法を理解し実践できる
7	進行性筋ジストロフィの理学療法	進行性筋ジストロフィの種類・病態などの知識を深め，具体的な理学療法についてその意義や目的を臨床的に説明できる
8	進行性筋ジストロフィの理学療法	進行性筋ジストロフィの病理・分類・症状の特徴を理解し，機能的アプローチを含めた理学療法について理解を深める
9	骨関節疾患の理学療法	先天性骨関節疾患や二分脊椎の病理や症状の知識を深め，それらに対する理学療法について説明できる
10	骨関節疾患の理学療法	小児領域の骨関節疾患や二分脊椎の病理・症状などの医学的知識を学習し，年齢や生活環境に即した具体的な理学療法を実践できる
11	知的発達障害の理学療法	知的発達障害児（者）の特徴および理学療法について理解できる
12	自閉症スペクトラム・発達性協調運動症の理学療法	不器用さを持つ児（者）の特性と支援について理解する
13	感覚統合療法	自閉症スペクトラム，学習障害，注意欠陥多動障害（ADHD）の患者に対応する「感覚統合療法」についてその概略が理解し、実践できる
14	内部障害の理学療法	様々な小児領域の内部障害について理解を深め，それらに対する理学療法について説明できる
15	内部障害の理学療法	小児の内部障害・小児がんの病理・種類を学習し，理学療法士の取り組みについて理解を深める

教科書	最新理学療法学講座 小児理学療法学	履修条件	15回の講義なので，3回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	適宜提示する	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
発達障害理学療法治療学	服部 範行　野澤 綾子　田縁 友博	1	2	後期

授業概要	発達障害学で学ぶ内容を理学療法の視点で深く掘り下げて学び，発達障害児（者）の治療について考えることができるよう講義を行う
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画		
1	発達障害とは	発達障害の概念および様々な新生児疾患の概要について理解し，それらと理学療法との関係が理解できる また，NICUにおける治療についても概略を理解できる
2	脳性麻痺の理学療法	脳性麻痺のタイプ・病理・症状などについて理解を深め，理学療法の適応が理解できる
3	重症心身障害児の理学療法	重症心身障害児（者）の理学療法の必要性について説明できる
4	進行性筋ジストロフィの理学療法	進行性筋ジストロフィの種類・病態などの知識を深め，具体的な理学療法についてその意義や目的を臨床的に説明できる
5	骨関節疾患の理学療法	先天性骨関節疾患や二分脊椎の病理や症状の知識を深め，それらに対する理学療法について説明できる
6	知的発達障害の理学療法	知的発達障害児（者）の特徴および理学療法について理解できる
7	自閉症スペクトラム・発達性協調運動症の理学療法	不器用さを持つ児（者）の特性と支援について理解する
8	内部障害の理学療法	様々な小児領域の内部障害について理解を深め，それらに対する理学療法について説明できる
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書	シンプル理学療法学シリーズ小児理学療法学テキスト改定第3版	履修条件	8回の講義なので，3回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	適宜提示する	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
発達障害理学療法治療学演習	服部 範行　野澤 綾子　田縁 友博	1	2	後期

授業概要	発達障害理学医療法治療学で学ぶ内容を深く掘り下げて学び，具体的な治療について実践できるよう演習を含めて授業を行う
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	新生児疾患の理学療法	周産期の障害を深く理解し，NICUにおける理学療法士の活動について理解できる
2	脳性麻痺の理学療法	脳性麻痺児への（諸家の治療理論による）アプローチの概要を理解し，基本的な運動療法的介入法を実践できる
3	重症心身障害児の理学療法	重複障害を伴う重症心身障害児に対する理学療法について，その目的・方法を理解し実践できる
4	進行性筋ジストロフィの理学療法	進行性筋ジストロフィの病理・分類・症状の特徴を理解し，機能的アプローチを含めた理学療法について理解を深める
5	骨関節疾患の理学療法	小児領域の骨関節疾患や二分脊椎の病理・症状などの医学的知識を学習し，年齢や生活環境に即した具体的な理学療法を実践できる
6	感覚統合療法	自閉症スペクトラム，学習障害，注意欠陥多動障害（ADHD）の患者に対応する「感覚統合療法」についてその概略が理解し、実践できる
7	内部障害の理学療法	小児の内部障害・小児がんの病理・種類を学習し，理学療法士の取り組みについて理解を深める
8	症例検討	提示された仮想症例に対する評価・治療プログラムを演習の中で計画し，臨床的な技能を習得する
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書	シンプル理学療法学シリーズ小児理学療法学テキスト改定第3版	履修条件	8回の講義なので，3回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	適宜提示する	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
老年期理学療法治療学	福井　瑞恵　　森田　将平	1	2	後期

授業概要	加齢に伴う心身機能の変化の特徴，疾患や障害について理解し，全人間的な介入法を考えられるように講義を行う
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	総論	老年期の心身機能の変化について，その概略が理解できる
2	高齢者の社会的役割	人生経験を積み上げた高齢者の役割の重要性について理解できる
3	社会活動の重要性	社会交流の場を保証し，QOLの維持向上に向けた理学療法士の取り組みについて理解できる
4	高齢者の生活について	稼働年齢をこえた高齢者の生活活動について，様々なパターンを類推し，高齢者の心身の健康について理解できる
5	高齢者の心理	高齢者の心理について理解できる
6	高齢者の心肺機能	高齢者の心肺機能や背景にある内部疾患などについて理解できる
7	高齢者の自律神経機能	若年者と比較した高齢者の自律神経機能について理解できる
8	高齢者の筋力について	高齢者の筋力について，サルコペニアを例に挙げて低運動による障がいの本質を理解できる
9	高齢者の栄養状態	高齢者の栄養状態について学習し，在宅リハにおける具体的なアセスメントや指導内容について理解できる
10	高齢者の代謝	生理学的視点から高齢者の代謝機能の特徴について理解できる
11	高齢者に対する理学療法①	虚弱高齢者に対する理学療法について，具体例を通して理解できる
12	高齢者に対する理学療法②	高齢者のADLについて，具体例を通して理解できる
13	高齢者に対する理学療法③	認知症の病態と理学療法の介入について理解できる
14	高齢者に対する理学療法④	高齢者の「生きがい・楽しみ」について，その本質を理解できる
15	高齢者に対する理学療法⑤	運動器障害全般の問題（歩行・バランス・骨粗鬆症なども含む）に関する包括的な理学療法におけるアセスメントについて実践できる

教科書	検討中	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
運動療法学	工藤　達也	1	2	前期
授業概要	本科目では，関節可動域制限や筋力低下といった基本的な運動障害の原因について理解するとともに各種運動療法を実施するうえで必要となる基礎理論について学習し，基本的な運動療法について実技演習を行う			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	総論	運動療法の定義や目的，進め方，実施時におけるリスク管理について理解できる
2	運動学習	運動学習理論および運動療法における運動学習の応用方法について理解できる
3	関節構造と運動	基本的な関節構造と関節運動，関節運動に制限を及ぼす病態について理解できる
4	関節可動域訓練	関節可動域訓練の目的や種類，基本的手技について理解できる
5	演習①	基本的な関節可動域訓練を実施でき，End feelについて理解できる
6	ストレッチング	ストレッチングの目的や理論，基本的手技について理解できる
7	演習②	基本的なストレッチングを実施でき，ストレッチング肢位について理解できる
8	筋力と運動	骨格筋の構造と筋力増強のメカニズムについて理解できる
9	筋力増強訓練	筋力増強訓練の目的や理論に応じた基本的手技について理解できる
10	演習③	基本的な筋力増強運動を実施でき，収縮様式や運動連鎖の特徴について理解できる
11	運動と呼吸機能	運動と呼吸機能の関連および運動が呼吸に与える影響について理解できる
12	運動と循環機能	運動と循環機能の関連および運動が循環に与える影響について理解できる
13	運動と代謝機能	運動と代謝機能の関連および運動が代謝に与える影響について理解できる
14	持久力増強運動	全身持久力トレーニングの原則やその効果，実施方法について理解できる
15	演習④	機器を用いた全身持久力トレーニングについて，具体的な運動処方を実技演習を通じて理解できる

教科書	運動療法学-障害別アプローチの理論と実際-第2版	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	講義内で適宜参考資料を配布する	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する. 小テストの結果と定期テストの結果および課題の成績を総合して成績に反映させる.		
備考	適宜，実技を行うので，動きやすい服装で授業に臨むこと		

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
補装具学	柏崎　幸雄	1	2	前期
授業概要	補装具の目的・機能・適応について理解し，生活支援や環境制御に有効な一つの手法であることを理解する。			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	装具学総論	装具の目的と装具を理解するために必要な運動学について理解できる。
2		
3	短下肢装具	短下肢装具の機能と適応について理解できる。
4		
5	長下肢装具	長下肢装具の機能と適応について理解できる。
6	靴型装具	靴型装具の機能と適応について理解できる。
7	上肢装具	肩・肘・手・指関節の装具・スプリントの機能と適応について理解できる。
8	体幹装具	頸部・胸部・腰部の装具の機能と適応について理解できる。
9	疾患特有の装具	疾患特有の装具の機能と適応について理解できる。
10	装具学　まとめ	装具の目的、機能、適応について理解できる。
11	義肢学総論	義肢の目的と義肢を理解するために必要な運動学について理解できる。
12	断端評価・管理	切断術後の断端評価と断端管理について理解できる。
13	切断者の リハビリテーション	切断手術・合併症・リハビリテーションについて理解できる。
14	下腿義足	下腿義足の名称，構造と機能，その適応について理解できる。
15		

教科書	『シンプル理学療法学シリーズ 義肢装具学テキスト 改訂第3版 （南江堂）』	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	講義内で適宜提示	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テスト・中間テスト・期末テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考	医療物理学・運動学・運動学演習を復習して講義に臨むこと		

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
補装具学演習	柏崎　幸雄	1	2	後期

授業概要	各障害に適した補装具を処方できる基礎能力を養い，生活支援や環境制御に有効な一つの手法であることを理解する。
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	大腿義足①	大腿義足の名称，構造と機能，その適応について理解できる
2	大腿義足②	大腿義足の名称，構造と機能，その適応について理解できる
3	大腿義足③	大腿義足のアライメント調整や歩行・ADLについて理解できる。
4	股義足・膝義足	股義足・膝義足の構造と機能，その適応について理解できる
5	その他の義足	サイム義足・足部義足の構造と機能，その適応について理解できる
6	義手	前腕・上腕義手の構造と機能，その適応について理解できる
7	断端管理	切断術後の断端管理について実践できる。
8	装具のチェックアウト①	装具のチェックアウトについて理解できる。
9	装具のチェックアウト②	装具のチェックアウトについて理解できる。
10	総合演習①	臨床における装具・義肢の種類と適応について理解できる。
11	総合演習②	臨床における装具・義肢の種類と適応について理解できる。
12	総合演習③	義肢装具の給付制度について、その特徴や違いを理解する。
13	総合演習④	義肢装具士と理学療法士との連携について理解できる。
14	総合演習⑤	装具の製作過程について理解できる。
15	総合演習⑥	装具の製作過程について理解できる。

教科書	『シンプル理学療法学シリーズ　義肢装具学テキスト 改訂第3版（南江堂）』	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	講義内で適宜提示	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストやレポート課題を実施する ・各テスト・レポートの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
日常生活活動学	羽澤　晃士	1	2	前期
授業概要	疾患や障害への理解を深め，それぞれの特徴に適した日常生活活動や介助方法について掘り下げて学習することを目的とする			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	ADLの概念　総論①	ADLの概念，ADLとQOLとの関連について理解することができる
2	ADLの分類　総論②	ADLとICFの関連，基本的日常生活活動（BADL），手段的日常生活活動（IADL），生活関連活動（APDL）について理解することができる
3	ADLの評価方法	BI（できるADL），FIM（しているADL）について理解することができる
4	脊髄損傷①	四肢麻痺の機能障害の概要について理解することができる
5	脊髄損傷②	四肢麻痺のADLの特徴や評価・介助方法，練習指導について，車いすや自助具などの名称や操作方法を通して理解することができる
6	脊髄損傷③	
7	脊髄損傷④	対麻痺の機能障害の概要について理解することができる
8	脊髄損傷⑤	対麻痺のADLの特徴や評価・介助方法，練習指導について，車いすや自助具などの名称や操作方法を通して理解することができる
9	脊髄損傷⑥	
10	脳卒中片麻痺①	脳卒中の機能障害の概要について理解することができる
11	脳卒中片麻痺②	脳卒中のADLの特徴や評価・介助方法，練習指導について，車いすや自助具などの名称や操作方法を通して理解することができる
12	脳卒中片麻痺③	
13	リウマチ①	リウマチの機能障害の概要について理解することができる
14	リウマチ②	リウマチのADLの特徴や評価・介助方法，練習指導について，車いすや自助具などの名称や操作方法を通して理解することができる
15	リウマチ③	

教科書	・PT・OTビジュアルテキスト ADL 第2版	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると期末試験を受験できない
参考書	・脳卒中の機能評価－SIASとFIM[基礎編] ・標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで，適宜小テストを実施する ・小テスト，期末試験の結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
日常生活活動学演習	羽澤　晃士	1	2	後期
授業概要	前期に引き続き，疾患や障害への理解を深め，それぞれの特徴に適した日常生活活動や介助方法について掘り下げて学習するとともに，起居移乗動作における介助技能を習得できるよう演習を行う。			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	骨関節疾患①	変形性関節症の機能障害の概要について理解することができる
2	骨関節疾患②	変形性関節症のADLの特徴や評価・介助方法，動作指導について理解することができる
3	起居移乗介助	起居移乗介助の目的や留意点，それぞれの正常な運動パターンについて理解することができる
4 5	全介助を想定した 起居動作介助	全介助を想定したベッド上の移動，寝返り，起居動作介助時の声かけや介助方法について理解し，技能を習得することができる
6 7	全介助を想定した 移乗動作介助	全介助を想定した環境設定を含む移乗準備，移乗介助時の声かけや介助方法について理解し，技能を習得することができる
8 9	脳卒中片麻痺を想定した 起居動作介助	脳卒中片麻痺を想定したベッド上の移動，寝返り，起居動作介助時の声かけや介助方法について理解し，技能を習得することができる
10 11	脳卒中片麻痺を想定した 移乗動作介助	脳卒中片麻痺を想定した環境設定を含む移乗準備，移乗介助時の声かけや介助方法について理解し，技能を習得することができる
12 13	脳卒中片麻痺を想定した 移動動作介助	脳卒中片麻痺を想定した平地歩行，段差・階段昇降時の声かけや介助方法について理解し，技能を習得することができる
14 15	総合演習	起居・移乗・移動介助における態度，知識，技能を習得し，実践能力を身につけることができる

教科書	・PT・OTビジュアルテキスト ADL 第2版	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると単位を修得できない
参考書	・PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編「Web動画付」	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで，適宜小テストを実施する ・小テスト，期末試験，提出物の結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
高次脳機能障害学	外舘　洸平	1	2	前期
授業概要	様々な原因で生じる高次脳機能についての知識を習得し、症状別のリハビリテーションについて考えることができるように講義および評価演習を行う。			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	高次脳機能障害学総論	高次脳機能障害とはなにか、リハビリテーションの流れについて理解できる
2	脳の構造と働き	脳の構造と部位ごとの働きについて理解できる
3	大脳の機能局在と障害	大脳の機能局在と、各部位が障害された場合の症状の概要を理解できる
4	脳画像読影	高次脳機能障害に関連するCT、MRI画像を読影することができる
5	空間認知障害 ①	半側空間無視を中心に、空間認知障害の発生メカニズムを理解できる
6	空間認知障害 ②	半側空間無視の評価と介入について理解できる
7	空間定位障害	Pusher現象を中心に、空間定位障害の発生メカニズムと評価、介入を理解できる
8	遂行機能障害	遂行機能障害の症状と評価、介入の際の注意点を理解できる
9	情動・社会的行動障害	情動・社会的行動障害の症状と評価、介入の際の注意点を理解できる
10	注意障害・記憶障害	注意障害・記憶障害の症状と評価、介入の際の注意点を理解できる
11	失行	失行の分類と評価、介入の際の注意点を理解できる
12	失認	失認の分類と評価、介入の際の注意点を理解できる
13	失語	失語の分類と評価、介入の際の注意点を理解できる
14	認知症	認知症の分類と評価、介入の際の注意点を理解できる
15	社会制度	高次脳機能障害の支援に必要な社会制度について理解できる

教科書	高次脳機能障害学 第3版　医歯薬出版	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	必要に応じて提示する	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・小テスト、期末テストの結果を総合して成績に反映する		
備考			

☐ 選択 ☑ 必修		☐ 講義 ☑ 演習 ☐ 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
リハビリテーション工学演習	工藤達也・石川竜乃介・古館裕大	1	2	前期
授業概要	リハビリテーション領域で急激に進みつつあるDX（医療DX）について，その基盤となる技術に触れる．本科目は医療DX教育を成す科目の1つである．			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	電子工作演習	フローチャートの描き方とmicro:bitのプログラミングの復習ができる
2		スマホとmicro:bitを連携したプログラムの作り方を理解できる
3		ブレッドボードの仕組みを理解でき，LEDを点灯する回路を作れる
4		スイッチと組み合わせて，LEDを点灯する回路を作れる．特に，スイッチによって"かつ"や"または"のロジックを作ることができる．
5		センサマットの作成を通して，医療に役立つ製品を安価に自作できることを理解できる．
6	3Dモデリング演習	Tinkercadの基本操作を理解できる．特に，図形の足し算について理解でき，複数の立体を結合できる．
7		図形の引き算について理解し，立体に穴を開けたり，立体を削ることができる．
8		図形の足し算と引き算により，自分の思い通りの3Dモデルを作成できる．
9		自助具を題材とし，既存の自助具の調査・問題提起を行い，問題の解決に至る3Dモデルを作成できる．また，一連の流れを発表会にて発表できる．
10		
11	MLモデリング演習	本演習で用いるプログラム開発環境（VSCode）を導入できる．また，Python言語の基本的な文法を理解できる．
12		OpenCVを用いたソフトウェアの利用を通して，ヒトの動作を自動で測定する方法を理解できる．
13		測定したヒトの動作について，Pythonを用いてグラフを書くことができる．また，様々な動作を測定し，グラフから動作の特徴を運動学的に考察できる．
14		測定したヒトの動作を特徴量化するプログラムが書ける．また，その特徴量から，測定した動作がどのようなものであるかを運動学的に考察できる．
15	リハビリテーション工学関連トピック（医療福祉工学）	医療と工学の複合領域についてAIやロボットを事例として，どのように開発されて臨床応用されているかについて理解できる

教科書	特に無し	履修条件	講義・演習ではPCを使用する．4回以上欠席すると単位を取得できない
参考書	特に無し	留意事項等	日常的にPCを利用し，PCの扱いに慣れ親しんでおく事
成績評価	中間レポート，期末レポート，課題により総合的に評価		
備考			

函館市医師会看護・リハビリテーション学院　理学療法学科

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
コミュニケーション方法論演習	平塚　健太	1	1	後期

授業概要	現在はコミュニケーションの方法は多様化している　それぞれのコミュニケーション方法についての使用例から，さらに社会人としての伝達方法であるプレゼン，レポート，レジュメ作成までを理解し，実施できるよう学んでほしい（手紙の書き方も含める）
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの定義と必要性を理解できる
2	コミュニケーションの種類	様々なコミュニケーション方法について提示し，適用と適用外について述べる
3	傾聴と質問	話の聞き方および質問の仕方を理解できる
4	会話のルールと質問の仕方	会話のルールやマナー・良質な質問を理解し、実践できる
5	異文化コミュニケーションと他者理解	様々な価値観を受け入れ、価値観を共有することができる
6	レポートの書き方	レポートの書き方について理解し，実践できる
7	資料の作り方とプレゼンテーション①	相手に伝わりやすい資料の作り方・プレゼンテーションを理解できる
8	資料の作り方とプレゼンテーション②	相手に伝わりやすい資料の作り方・プレゼンテーションを理解し、実践できる

教科書	資料を配布する	履修条件	pcを使用する 15回の講義なので４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	適宜	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

函館市医師会看護・リハビリテーション学院　理学療法学科

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
リハビリテーション管理学Ⅰ	平塚　健太	1	2	前期
授業概要	業務を実施するにあたり，リスクマネジメントや組織運営の観点からの個人の在り方までメタ認知を高めて行動できるよう講義を行う			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画		
1	リハビリテーション管理学総論	リハビリテーション管理学の概念や背景について理解できる
2	医療機関の分類と組織	医療機関の分類や組織構成・役割について理解できる
3	医療保険と介護保険	理学療法業務に必要な医療保険・介護保険・社会保障について理解できる
4	診療・介護報酬制度	リハビリテーション分野における収益構造を理解できる
5	組織と業務・労務管理	組織やチーム・人事考課や労働基準法について理解し、考えを述べることができる
6	リスク管理	医療安全・感染症管理・クレーム対応などのリスク管理を理解できる
7	卒前・卒後教育	生涯学習に至る教育体制や内容を理解し、考えを述べることができる
8	リーダーシップ・マネジメント	管理職としてあるべき姿勢を理解できる

教科書	リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	適宜提示	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
リハビリテーション管理学Ⅱ	平塚　健太	1	2	後期
授業概要	リハビリテーション管理学Ⅰで学んだ内容をグループワークを通して、実践していく講義とする			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	オリエンテーション	リハビリテーション管理学Ⅰの内容を理解できる
2	組織とキャリア①	組織文化や適切な組織づくりのための価値観を理解できる
3	組織とキャリア②	リハビリテーション分野におけるキャリアラダーについて理解できる
4	介護予防事業①	地域における介護予防事業の実態を理解できる
5	介護予防事業②	地域特性を活かした介護予防事業の提案ができる
6	臨床実習マネジメント	臨床実習における学生ならびにスタッフのマネジメントが理解できる
7	臨床教育マネジメント	臨床業務におけるスタッフの教育やマネジメントが理解できる
8	まとめ	管理職としてあるべき姿勢を理解できる

教科書	リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック	履修条件	8回の講義なので，3回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	適宜提示	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・8回の講義のなかで、適宜小テストやレポート課題を実施する ・小テストの結果とレポート課題の結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
地域理学療法学演習Ⅰ	佐野 公秀　渡邉 友章	1	1	前期
授業概要	在宅において医療・福祉サービスを必要のする対象者（特に高齢者）の医学的問題点に触れ，函館市，道南地域のいける在宅リハビリテーションの重要性について論じる			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	総論　①	地域リハビリテーションの概略について理解できる
2	総論　②	函館市，道南地域の医療・福祉がどのように展開されているか理解できる
3	総論　③	函館市，道南地域の地域医療，在宅リハビリテーションの必要性が理解できる
4	総論　④	様々な障がいを持つ対象者に対する在宅リハにおけるPT・OTの業務や多職種連携について理解できる
5	高齢者の心身機能　①	ロコモティブシンドロームとは何かが理解できる
6	高齢者の心身機能　②	サルコペニアとは何かが理解できる
7	高齢者の心身機能　③	フレイルとは何かが理解できる
8	高齢者の心身機能　④	廃用症候群とは何かが理解できる
9	高齢者の心身機能　⑤	認知症の病理や症状の概略が理解できる
10	高齢者の心身機能　⑥	各種心身の医学的問題点への対処についてその概略が理解できる
11	健康寿命　①	健康な高齢者の身体機能について理解できる
12	健康寿命　②	筋力低下を来している在宅のクライエントに対する理学療法について理解できる
13	健康寿命　③	心肺機能が低下している在宅のクライエントに対する理学療法について理解できる
14	健康寿命　④	内部障害（悪性腫瘍，糖尿病など）により心身機能の低下を来している在宅のクライエントに対する理学療法について理解できる
15	健康寿命　⑤	予防的リハビリテーションの目的や効果について理解できる

教科書	資料を配布する	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
地域理学療法学演習Ⅱ	溝部　和	1	1	後期
授業概要	地域リハビリテーションを展開するうえで必要不可欠な基本的動作を実践的な立場から論じ，演習を通じて理解を深める			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画		
1	コミュニケーション①	在宅でのコミュニケーションの必要性・重要性を理解する
2	コミュニケーション②	在宅でのコミュニケーションの必要性・重要性を理解する
3	基本動作　起居①	起居活動の制限に対する地域作業療法介入の目的を理解できる
4	基本動作　起居②	寝返り動作の基本パターンを理解し援助方法を習得する
5	基本動作　起居③	起き上がり動作の基本パターンを理解し援助方法を習得する
6	基本動作　起居④	起立動作の基本パターンを理解し援助方法を習得する
7	基本動作　起居⑤	移乗動作の基本パターンを理解し援助方法を習得する
8	基本動作　起居⑥	総合演習・復習
9	基本動作　移動①	屋内外での移動制限に対する地域作業療法介入の目的を理解できる
10	基本動作　移動②	歩行動作に対する援助方法を習得する
11	基本動作　移動③	移動動作を分割して考える
12	在宅でのADL①	ADLに注目した地域作業療法介入の目的を理解できる
13	在宅でのADL②	排泄動作や入浴動作に対する援助方法を習得する
14	在宅でのADL③	在宅でのADLを分割して考えることができる
15	在宅でのADL④	在宅でのADLを分割して考えることができる

教科書	資料を配布する	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と中間テスト、定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考	・実技が中心となるため、動きやすい服装で講義に望むこと		

□　選択　☑　必修		☑　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
地域理学療法学演習Ⅲ	溝部　和	1	2	前期

授業概要	地域理学療法学演習Ⅱで学習した基礎的な内容をふまえ，具体的な臨床技術を演習の中で経験させ，在宅リハにおける作業療法士の臨床活動について論じる
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	フィジカルアセスメント総論①	訪問リハビリテーション場面における危険予測トレーニングを通じてフィジカルアセスメント（PA）の概要を理解することができる
2	フィジカルアセスメント総論②	フィジカルイグザミネーション（PE）とフィジカルアセスメント（PA）の違いや問診の重要性、また、これらより得た情報を統合し評価（解釈）することができる
3	フィジカルアセスメント総論③	生理学的・病理学的視点から根拠をもって全身状態を判断することの重要性を感じフィジカルアセスメント（PA）の意義を理解することができる
4	バイタルサイン	バイタルサイン（体温・脈拍・血圧・呼吸）を計測する意義や方法について理解することができる
5	頭頸部のアセスメント	顔面の視診、甲状腺や頭頸部リンパ節のアセスメントについて理解することができる
6	呼吸器系のアセスメント	呼吸器系の解剖生理を把握していることを前提に、問診、視診、触診（体表解剖）、聴診、打診することの意義や方法について理解する事ができる
7	循環系のアセスメント	循環器系の解剖生理を把握した上で問診、視診することの意義や方法について理解するとともに抹消循環器系のアセスメントについて理解することができる
8	地域の考え方とリスクマネジメント	高齢者が地域で生活を継続する為の視点を学び、それに伴うリスクマネジメントを理解することができる
9	多職種連携と職域	地域でかかわる多職種を理解することで、セラピストの役割を理解できる
10	地域の職域と介護保険制度	地域での活動内容から広域な職域を理解し、それに必要な介護保険の基本理念などを理解できる
11	介護保険制度による住環境整備Ⅰと使用方法	介護保険制度を利用した住環境の整備を学び、ADL。QOLの向上に結びつける事が出来る。また車椅子やベッドマットの使用方法を理解できる。
12	介護保険制度による住環境整備Ⅱ	介護保険制度を利用した住環境の整備を学び、ADL。QOLの向上に結びつける事が出来る
13	介護保険制度による住環境整備Ⅲ	介護保険制度を利用した住環境の整備を学び、ADL。QOLの向上に結びつける事が出来る。また歩行器等の使用方法を理解できる。
14	介護保険制度による住環境整備Ⅳ	介護保険制度を利用した住環境の整備を学び、ADL。QOLの向上に結びつける事が出来る
15	在宅で必要な介護技術	実際の場面で必要となる介護方法や家族への指導方法を理解することが出来る

教科書	フィジカルアセスメントが見える	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	リハビリテーションリスク管理ハンドブック	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
理学療法学総論Ⅰ	平塚　健太、相馬 栄大、羽澤晃士、工藤 達也、外舘 洸平	1	3	前期

授業概要	臨床実習前の演習として，心構えや知識技術の補完をする
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	理学療法評価演習　①	インテークから情報収集，評価や治療の立案概要を理解できる
2	理学療法評価演習　②	神経学的検査，運動器の評価など，身体機能の評価を復習し，実践的な技能を身につける
3	理学療法評価演習　③	
4	ADLへの介入　①	基本動作の評価，治療的介入法を復習し，実践的な技能を身につける
5	ADLへの介入　②	
6	歩行　①	正常歩行の分析（歩容や定量的な分析）から評価基準を推定できる
7	歩行　②	各種の異常歩行の分析から，歩行訓練の方法を導き出せる
8	運動療法　①	各種の障害に対する運動療法を演習の中で学習し，実践的な能力を習得する
9	運動療法　②	
10	運動療法　③	
11	運動療法　④	
12	物理療法　①	各症状に対応する物理療法を復習し，各効能を理解する
13	物理療法　②	演習を通じて，治療器具の扱い方や禁忌事項などについて理解を深める
14	総括　①	診療記録の作成の方法，リハビリテーションカンファレンスへの対応など，実践的な演習の中で理学療法士としてのアイデンティティを高める
15	総括　②	既習の学習内容を総括し，各領域の理学療法士の役割について理解を深める

教科書	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

□　選択　☑　必修			☑　講義　□　演習　□　実習	
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
理学療法学総論Ⅱ	平塚　健太、相馬 栄大、羽澤晃士、工藤 達也、外舘 洸平	2	3	後期

授業概要	3年間の集大成として学べるよう講義を展開する
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	基礎・臨床医学領域：骨格系の構造と機能　①	骨の発生学，微細構造，形状について理解できる
2	基礎・医学領域 骨格系の構造と機能　②	骨機能，骨疾患について理解できる
3	基礎・医学領域 骨格系の構造と機能　③	関節の形状とその動きについて理解できる
4	基礎・医学領域 骨格系の構造と機能　④	骨に関わる運動器疾患について理解できる
5	基礎・臨床医学領域 筋の構造と機能　①	筋の種類，収縮のメカニズムについて理解できる
6	基礎・臨床医学領域 筋の構造と機能　②	エネルギー代謝・筋疾患などを理解できる
7	基礎・臨床医学領域 筋の構造と機能　③	筋の支配神経，神経筋接合部の機能について理解できる
8	基礎・臨床医学領域 筋の構造と機能　④	関節運動と筋収縮の関係について理解できる
9	基礎・臨床医学領域 神経系　①	中枢神経の構造と機能について理解できる
10	基礎・臨床医学領域 神経系　②	中枢神経障害による病態について理解できる
11	基礎・臨床医学領域 神経系　③	末梢神経の構造と機能について理解できる
12	基礎・臨床医学領域 神経系　④	末梢神経障害による病態について理解できる
13	基礎・臨床医学領域 神経系　⑤	脊髄疾患，脊髄損傷の病態について理解できる
14	基礎・臨床医学領域 神経系　⑥	自律神経の構造と機能について理解できる
15	基礎・臨床医学領域 内臓系　①　呼吸器	呼吸器構造と機能．それらの障害を惹起する代表的な疾患について理解できる
16	基礎・臨床医学領域 内臓系　②　循環器	循環器構造と機能．それらの障害を惹起する代表的な疾患について理解できる
17	基礎・臨床医学領域 内臓系　③　消化器Ⅰ	口腔、食堂、胃の構造と機能．それらの障害を惹起する代表的な疾患について理解できる
18	基礎・臨床医学領域 内臓系　④　消化器Ⅱ	十二指腸、小腸、大腸の構造と機能．それらの障害を惹起する代表的な疾患について理解できる

19	基礎・臨床医学領域 内臓系　⑤　消化器Ⅲ	肝臓、膵臓、胆道の構造と機能．それらの障害を惹起する代表的な疾患について理解できる
20	基礎医学領域 内臓系　⑥　泌尿器	腎臓・膀胱の構造と機能，代表的な疾患とその症状について理解できる
21	基礎・臨床医学領域 内分泌系	内分泌器官の構造と機能，代表的な疾患とその症状について理解できる
22	基礎・臨床医学領域 代謝系	各代謝のメカニズムと働き，代表的な疾患とその症状について理解できる
23	基礎・臨床医学領域 先天性疾患	様々な遺伝病，周産期異常など，代表的な先天性疾患の症状について理解できる
24	基礎・臨床医学領域 精神医学　①	精神障害領域の疾患と治療について理解できる
25	基礎・臨床医学領域 精神医学　②	てんかん，認知症について理解できる
26	基礎・臨床医学領域 精神医学　③	統合失調症について理解できる
27	基礎・臨床医学領域 精神医学　④	うつ病，パーソナリティ障害について理解できる
28	基礎・臨床医学領域 小児科学領域　①	小児の運動発達およびその評価について理解できる
29	基礎・臨床医学領域 小児科学領域　②	脳性麻痺について理解できる
30	基礎・臨床医学領域 小児科学領域　③	発達障害も含め小児科領域の疾患について理解できる

教科書	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	30回の講義なので，7回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・30回の講義の中で数回小テストを行い，模擬試験の結果も勘案したうえで，各々の成績の合算により総合的に判定する		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
理学療法学総論Ⅲ	平塚　健太、相馬 栄大、羽澤晃士、工藤 達也、外舘 洸平	2	3	後期
授業概要	3年間の集大成として学べるよう講義を展開する			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	基礎・臨床医学領域 臨床心理学　①	発達段階と発達課題について理解できる
2	基礎・臨床医学領域 臨床心理学　②	防衛機制，障害受容，記憶について理解できる
3	基礎・臨床医学領域 臨床心理学　③	心理療法，各種検査について理解できる
4	基礎・臨床医学領域 リハビリテーション概論	障害分類（ICF），ユニバーサルデザインについて理解できる
5	基礎・臨床医学領域 公衆衛生	標準予防策，一時救命処置などのリスク管理について理解できる
6	基礎・臨床医学領域 制度関連	理学療法士および作業療法士法，介護保険などの法制・制度を理解できる
7	基礎・臨床医学領域 病理学　①	免疫，感染症について理解できる
8	基礎・臨床医学領域 病理学　②	腫瘍，老化について理解できる
9	基礎・臨床医学領域 病理学　③	炎症，創傷治癒について理解できる
10	基礎・臨床医学領域 老年医学	サルコペニア，フレイル，廃用症候群について理解できる
11	基礎・臨床医学領域 病理学　③	内分泌器官の構造と機能，代表的な疾患とその症状について理解できる
12	基礎・臨床医学領域 診断学　①	脳の画像診断学について理解できる
13	基礎・臨床医学領域 診断学　②	胸部，腹部，四肢の画像診断学について理解できる
14	基礎・臨床医学領域 診断学　③	異常心電図の判読，心疾患の診断について理解する
15	基礎・臨床医学領域 臨床薬理学	様々な症状に適応する薬剤について理解できる
16	基礎・臨床医学領域 生化学検査	生化学的検査による正常基準と異常所見を惹起する疾患について理解できる
17	基礎・臨床医学領域 PE・PA	フィジカルアセスメントに関連する各事項について理解できる
18	専門領域 生体力学　①	てこの原理，モーメントなどの運動力学について理解できる

19	専門領域 生体力学　②	正常歩行の特徴および歩行周期と筋活動，歩行率について理解できる
20	専門領域 生体力学　③	異常歩行の特徴およびその原因について理解できる
21	専門領域 生体力学　④	姿勢，基本動作における運動学的特徴について理解できる
22	専門領域 運動療法学　①	運動学習の理論と学習方法，患者教育について理解できる
23	専門領域 運動療法学　②	関節可動域訓練およびストレッチングの理論と方法について理解できる
24	専門領域 運動療法学　③	筋力増強訓練の理論と方法について理解できる
25	専門領域 運動療法学　④	運動における呼吸，循環，代謝などの生体反応について理解できる
26	専門領域 物理療法学　①	温熱療法の種類，適応と禁忌，実施方法について理解できる
27	専門領域 物理療法学　②	寒冷療法の種類，適応と禁忌，実施方法について理解できる
28	専門領域 物理療法学　③	超音波療法の種類，適応と禁忌，実施方法について理解できる
29	専門領域 物理療法学　④	電気刺激療法の種類，適応と禁忌，実施方法について理解できる
30	専門領域 物理療法学　⑤	水治療法および牽引療法の適応と禁忌，実施方法について理解できる

教科書	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	30回の講義なので，7回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・30回の講義の中で数回小テストを行い，模擬試験の結果も勘案したうえで，各々の成績の合算により総合的に判定する		
備考			

☐ 選択 ☑ 必修		☑ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
理学療法学総論Ⅳ	平塚　健太、相馬 栄大、羽澤晃士、工藤 達也、外舘 洸平	2	3	後期

授業概要	3年間の集大成として学べるよう講義を展開する
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	専門領域 理学療法評価　①	関節可動域測定について理解できる
2	専門領域 理学療法評価　①	徒手筋力検査について理解できる
3	専門領域 理学療法評価　③	高次脳機能検査などの疾患別評価法について理解できる
4	専門領域 理学療法評価　④	脳血管障害などの疾患別評価法について理解できる
5	専門領域 補装具学　①	上肢，体幹装具の名称，機能，適応について理解できる
6	専門領域 補装具学　②	下肢装具の名称，機能，適応について理解できる
7	専門領域 補装具学　③	切断術後の評価，断端管理，術後リハビリテーションについて理解できる
8	専門領域 補装具学　④	義足の名称，構造と機能，適応について理解できる
9	専門領域 運動器障害領域　①	肩，肘関節疾患の理学療法について，その目的と方法を理解できる
10	専門領域 運動器障害領域　②	股関節疾患の理学療法について，その目的と方法を理解できる
11	専門領域 運動器障害領域　③	膝関節疾患の理学療法について，その目的と方法を理解できる
12	専門領域 運動器障害領域　④	手，足関節疾患の理学療法について，その目的と方法を理解できる
13	専門領域 運動器障害領域　⑤	脊椎疾患の理学療法について，その目的と方法を理解できる
14	専門領域 運動器障害領域　⑥	スポーツ障害の理学療法について，その目的と方法を理解できる
15	専門領域 神経障害領域　①	脳卒中の理学療法について，その目的と方法を理解できる
16	専門領域 神経障害領域　②	高次脳機能障害の理学療法について，その目的と方法を理解できる
17	専門領域 神経障害領域　③	脊髄損傷の理学療法について，その目的と方法を理解できる
18	専門領域 神経障害領域　④	パーキンソン病の理学療法について，その目的と方法を理解できる

19	専門領域 神経障害領域　⑤	神経・筋疾患の理学療法について，その目的と方法を理解できる
20	専門領域 内部障害領域　①	心疾患の理学療法について，その目的と方法を理解できる
21	専門領域 内部障害領域　②	呼吸器疾患の理学療法について，その目的と方法を理解できる
22	専門領域 内部障害領域　③	代謝疾患の理学療法について，その目的と方法を理解できる
23	専門領域 内部障害領域　④	腎機能障害の理学療法について，その目的と方法を理解できる
24	専門領域 内部障害領域　⑤	がんの理学療法について，その目的と方法を理解できる
25	専門領域 発達障害領域　①	脳性麻痺の理学療法について，その目的と方法を理解できる
26	専門領域 発達障害領域　②	筋ジストロフィーの理学療法について，その目的と方法を理解できる
27	専門領域 発達障害領域　③	重症心身障害児の理学療法について，その目的と方法を理解できる
28	専門領域 発達障害領域　④	知的発達障害児の理学療法について，その目的と方法を理解できる
29	専門領域 老年期障害領域	老年期障害領域の理学療法について，その目的と方法を理解できる
30	専門領域 医療統計	代表的な検定方法について理解できる

教科書	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	30回の講義なので，7回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・30回の講義の中で数回小テストを行い，模擬試験の結果も勘案したうえで，各々の成績の合算により総合的に判定する		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☐　演習　☑　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
臨床実習Ⅰ	平塚　健太	1	1	後期

授業概要	臨床教育者のクリニカルクラークシップの要領による指導により，病院・施設における理学療法士の臨床活動を見学する
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	1単位（40時間）で行う臨床実習Ⅰ（見学実習）を通して，理学療法士の職務について理解を深める．
2	臨床場面における理学療法士の活動，他のリハビリテーション関連職種との連携業務を見学し，リハビリ
3	テーション業務の全体像を理解する．また，臨床教育者の指導により，患者（利用者）と個別にコミュニ
4	ケーションをとり，大まかな障害像を把握できるように学習する．
5	本実習では，それぞれ臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価を行う．
6	臨床実習前の評価（８時間）により，どのような態度・視点で見学実習に臨めば目標を達成できるのかを
7	学ぶ．患者（利用者）との接し方，臨床教育者とのコミュニケーションのとりかた，当該実習施設の役割
8	や使命，リハビリテーション部門の大まかな業務の流れ（処方・評価・治療など），理学療法士の具体的
9	な業務，などを事前に学習し，自分で本実習の目標を立てることができるようになる．
10	臨床実習後の評価（８時間）では，臨床実習Ⅰで学び得たことを発表し，他の学生からの質疑を通して
11	到達目標を達成できたかを確認する．
12	
13	
14	
15	

	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	全日程の1/5以上欠席すると単位を認定しない
参考書	既存の教科書，ノート，ジャーナルなどの参考資料を有効に利用すること	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	臨床実習前の評価，臨床実習後の評価，実習記録，課題等の成果物などを総合的に判断し評価する		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☐　演習　☑　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
臨床実習Ⅱ	平塚　健太	1	2	前期
授業概要	臨床教育者のクリニカルクラークシップの要領による指導により，在宅・通所リハビリテーションにおける理学療法士の臨床活動を見学する			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画	
1	1単位（40時間）で行う臨床実習Ⅱ（見学実習）を通して，在宅・通所リハビリテーションにおける理学療法士の職務について理解を深める． 臨床場面における理学療法士の活動，他のリハビリテーション関連職種との連携業務を見学し，リハビリテーション業務の全体像を理解する．また，臨床教育者の指導により，患者（利用者）と個別にコミュニケーションをとり，大まかな障害像を把握できるように学習する．
2	
3	
4	
5	
6	
7	本実習では，それぞれ臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価を行う． 臨床実習前の評価（８時間）により，どのような態度・視点で見学実習に臨めば目標を達成できるのかを学ぶ．患者（利用者）との接し方，臨床教育者とのコミュニケーションのとりかた，当該実習施設の役割や使命，リハビリテーション部門の大まかな業務の流れ（処方・評価・治療など），理学療法士の具体的な業務，などを事前に学習し，自分で本実習の目標を立てることができるようになる． 臨床実習後の評価（８時間）では，臨床実習Ⅱで学び得たことを発表し，他の学生からの質疑を通して到達目標を達成できたかを確認する．
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	全日程の1/5以上欠席すると単位を認定しない
参考書	既存の教科書，ノート，ジャーナルなどの参考資料を有効に利用すること	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	臨床実習前の評価，臨床実習後の評価，実習記録，課題等の成果物などを総合的に判断し評価する		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☐　演習　☑　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
臨床実習Ⅲ	平塚　健太	3	2	後期

授業概要	臨床教育者のクリニカルクラークシップの要領による指導により，病院・施設における理学療法士の指導の下，見学・模倣の中で各種検査法の実習を行う
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	
2	
3	
4	
5	3単位（120時間）で行う臨床実習Ⅲ（評価実習）を通して，理学療法士が対象者の検査をどのように実施しているかを見学・模倣を通して理解を深める．臨床指導者の指導により，各障害に対応する適切な検査法を選択し，患者（利用者）にそれを正確な手技で実施できるようになる．
6	
7	本実習ではそれぞれ臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価を行う． 臨床実習前の評価（24時間）により，どのような技能を身に着けて実習に臨めば目標を達成できるのか
8	を学ぶ．患者（利用者）との接し方，疾患・障害を理解するための情報収集の方法，対象者に応じた具体的な検査方法，その検査結果が示す健常者との相違点など，理学療法士が行っている検査法を事前に学習し，自分で本実習の目標を立てることができるようになる．
9	臨床実習後の評価（16時間）では，本実習で学び得たことを発表し，他の学生からの質疑を通して到達目標を達成できたかを確認する．
10	
11	
12	
13	
14	
15	

	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	全日程の1/5以上欠席すると単位を認定しない
参考書	既存の教科書，ノート，ジャーナルなどの参考資料を有効に利用すること	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	臨床実習前の評価，臨床実習後の評価，実習記録，課題等の成果物などを総合的に判断し評価する		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☐　演習　☑　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
臨床実習Ⅲ	平塚　健太	9	3	前期
授業概要	臨床教育者のクリニカルクラークシップの要領による指導により，病院・施設における理学療法士の指導の下，見学・模倣・実施のプログラムの中で治療学実習を行う			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	9単位（360時間）で行う臨床実習Ⅳ（総合実習）を通して，理学療法士が対象者の検査・評価・治療をどのように実施しているかを臨床教育者の指導のもとで見学・模倣・実施を通して理解を深め，各障害に対応する適切な治療法を選択し，患者（利用者）にそれを正確な手技で実施できるようになる．
7	
8	本実習ではそれぞれ臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価を行う． 臨床実習前の評価（24時間）により，どのような技能を身に着けて実習に臨めば目標を達成できるのかを学ぶ．患者（利用者）との接し方，疾患・障害を理解するための情報収集の方法，対象者に応じた具体的な検査・評価方法，その検査結果が示すICFに照らし合わせた問題点・利点の解釈，理学療法士が行う治療手技などを事前に学習し，自分で本実習の目標を立てることができるようになる．
9	
10	臨床実習後の評価（16時間）では，本実習で学び得たことを発表し，他の学生からの質疑を通して到達目標を達成できたかを確認する．
11	
12	
13	
14	
15	

教科書	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	全日程の1/5以上欠席すると単位を認定しない
参考書	既存の教科書，ノート，ジャーナルなどの参考資料を有効に利用すること	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	臨床実習前の評価，臨床実習後の評価，実習記録，課題等の成果物などを総合的に判断し評価する		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☐　演習　☑　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
臨床実習Ⅳ	平塚　健太	9	3	前期
授業概要	臨床教育者のクリニカルクラークシップの要領による指導により，病院・施設における理学療法士の指導の下，見学・模倣・実施のプログラムの中で治療学実習を行う			
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。			

授業計画

1	
2	
3	
4	
5	
6	9単位（360時間）で行う臨床実習Ⅴ（総合実習）を通して，理学療法士が対象者の検査・評価・治療を
7	どのように実施しているかを臨床教育者の指導のもとで見学・模倣・実施を通して理解を深め，各障害に対応する適切な治療法を選択し，患者（利用者）にそれを正確な手技で実施できるようになる．
8	本実習ではそれぞれ臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価を行う． 臨床実習前の評価（24時間）により，どのような技能を身に着けて実習に臨めば目標を達成できるのか
9	を学ぶ．患者（利用者）との接し方，疾患・障害を理解するための情報収集の方法，対象者に応じた具体的な検査・評価方法，その検査結果が示すICFに照らし合わせた問題点・利点の解釈，理学療法士が行う治療手技などを事前に学習し，自分で本実習の目標を立てることができるようになる．
10	臨床実習後の評価（16時間）では，本実習で学び得たことを発表し，他の学生からの質疑を通して到達目標を達成できたかを確認する．
11	
12	
13	
14	
15	

教科書	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	全日程の1/5以上欠席すると単位を認定しない
参考書	既存の教科書，ノート，ジャーナルなどの参考資料を有効に利用すること	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	臨床実習前の評価，臨床実習後の評価，実習記録，課題等の成果物などを総合的に判断し評価する		
備考			